※評価基準は、次のとおり。
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分

平成27年3月12日

平成26年度 自己点検評価書

	[最左欄] ローマ数字欄 認:機関別認証評価で指摘された項目(○:書面指摘,△:訪問調査時指摘) 外:外部評価委員会で指摘された項目					関連項目番号	教務主事	学生主事	寮務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	教育支援室長	就職主任	教育課程部会	授業改善部会	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ 「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ) 「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)
	Ⅰ 業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置																															
	1 教育に関する事項																															
	(1)入学者の確保																															
1	Ⅰ	1	(1)	①	教員による中学校訪問		○																					入試案内と，9月6日の佐賀市および9月27日の福岡市での学校説明会，10月18日の本校での学校見学会・見学会の案内のため，37名の教員が8月21日から9月19日の間に中学校219校，塾4校を訪問した．(教務) 分担した中学校を訪問した。(専攻科)	A(教務)	A	A	材料工学科の志願倍率が平成26年度の1.0倍から平成27年度1.8倍へ上昇した．材料工学科は10月に学科として中学校訪問を行っており，その効果を見極めた上で平成27年度の中学校訪問の方を検討する．(教務)
2	Ⅰ	1	(1)	①	志願倍率向上方策の検討・実施		○																					5月14日開催の平成26年度第1回教員会議で，平成26年度の志願者数が約15%減少したこと，特に久留米市で減少が大きいことを教務主事が説明し，志願者増への協力を依頼した． 高専での学生生活をイメージしやすいように部活見学を中学生を対象とした一日体験入学(8月18日，19日)で行った．アンケートによれば好評であった．10月18日の学校説明会・学校見学会でも部活見学を行う予亭である． 一日体験入学(8月18日，19日)の説明のためこれまで6月に実施していた中学校訪問はとりやめ，ポスター掲示依頼のみとしていた一日体験入学と学校説明会の中学生への案内を，A4のチラシを作り中学3年生一人一人に配布して頂くよう中学校にお願いした． 一日体験入学の受入人数を昨年度までの600名から700名に増やし，申込者全員受入の体制をとった． 一日体験入学に参加した中学生一人一人に，学校説明会と入試の日程を記した礼状を渡して頂くよう，中学校へ参加人数分だけ送付して依頼した． 志願者が減少傾向にある久留米市内の中学校へは，要望があれば各校で行われる進路説明会に教員を派遣する旨案内を行った．また，これら中学校への訪問教員にはここ数年の志願者，入学者，体験入学参加者のグラフを中学校へ示してもらい，本校への評価や中学生およびその保護者の意識を尋ねてもらった．(教務)	A(教務)	A		平成27年度入試において志願倍率が前年度の1.7倍から2.0倍とほぼ例年並みへ回復したことから，平成26年度の取り組みを平成27年度も続ける．(教務)
3	Ⅰ	1	(1)	②	学校説明会・見学会の実施		○																					8月18日，19日に中学生を対象とした一日体験入学を行い140校585名の参加があった．9月6日の佐賀市での学校説明会(有明高専，佐世保高専と合同)では全体説明に87名(含む保護者)，それに続く個別相談には22名の参加があった．9月27日の福岡市での学校説明会(有明高専，北九州高専と合同，瀬戸内3商船高専も参加)では全体説明に193名(含む保護者)，それに続く個別説明には122名の参加があった．この他，10月18日本校での学校説明会と見学会，11月8日に同じく本校での学校説明会を予定している．(教務) 学校見学会での専攻科棟1階ロビーの公開予定。(専攻科)	A(教務)	A	A	本年度実施した一日体験入学での在校生による学校生活の説明と部活見学が好評であったので，平成27年度も実施する．また，PPTの説明ではニーズに沿った分かりやすい説明を工夫する．(教務)
4	Ⅰ	1	(1)	②	中学生やその保護者に対する学校見学対応		○																					)6月21日に羽犬塚中学校PTA約40名，6月25日に櫛原中学校生徒4名の訪問を受け入れた．今後，10月4日に太宰府中学校PTA，10月17日に久留米市北野町の中学生保護者の訪問が予定されている．(教務) 学校見学会での専攻科棟1階ロビーでのパネル(行事、JABEE関連)公開掲示、電子掲示板の活用予定。(専攻科) 学科別説明資料(パワポ)作成(生化)	A(教務)	A		本校の学校行事に支障がない限り，受け入れ，丁寧に対応する．．(教務)
5	Ⅰ	1	(1)	②	高専合同学校説明の実施		○																					9月6日の佐賀市での学校説明会(有明高専，佐世保高専と合同)，9月28日の福岡市での学校説明会(有明高専，北九州高専と合同，熊本高専，鹿児島高専および瀬戸内3商船高専が参加．大分，佐世保，沖縄はパンフレット)の計画と運営を本校が中心となって行った．高専全体の概要説明を本校教務主事が行った．(教務)	A(教務)	A		合同説明会では複数の学校の説明が聞けて良いというアンケート回答があり，平成27年度もこれを行う．．(教務)
6	Ⅰ	1	(1)	②	入試説明懇談会の実施		○																					中学校教員を主な対象とした入試説明懇談会を10月27日に久留米市で，10月28日に福岡市で開催予定である．昨年度アンケートにスライドを映示だけでなく資料としてほしいという希望があり，差し支えない部分は配付資料としたい．(教務) 10/18 学校見学会での専攻科に関する進路質問対応。(専攻科)	A(教務)	A		資料の配付を引き続き行うと共に，ニーズにあった説明を行う．．(教務)
7	Ⅰ	1	(1)	②	一日体験入学の実施及び募集のための中学校訪問		○																					一日体験入学の説明のための中学校訪問はとりやめ，これまでポスター掲示依頼のみとしていた一日体験入学と学校説明会のの案内を，A4のチラシを作り中学3年生一人一人に配布して頂くよう中学校にお願いした．(教務)	A(教務)	A		一日体験入学の案内のための中学校訪問を取りやめたが，代替方法により十分な参加申込があったので，この方法を来年度も行う．．(教務)
8	認外	1	(1)	②	○一日体験入学アンケート実施、分析および対策検討		○																					例年と同様なアンケートを実施した．結果は反省会に示して来年度どのような形で行うか(選択制にするか従来どおりか，本年初めて全校的に行った部活見学をどうするか)に役立てる． アンケートは概ね好評であった．ただし，好意的意見しかアンケートには出てこない恐れを自覚しておく．(教務)	A(教務)	A		平成26年度は，自由記述を分類したところ，「イベントとして楽しい」から「受験勉強のモチベーション向上」までいくつかに分類できたので，この整理を平成27年度も行う．また，在校生による学校紹介が好評であること，本校学生が生き生きしている様子を見て良い学校という印象を持ったという回答が多くあったので，在校生による学校紹介と部活紹介は平成27年度も行う．．(教務)
9	外	1	(1)	②	一日体験入学アンケート項目の見直し(外部評価委員会指摘等)		○																					部活見学に関するアンケートを行った．(教務)	B(教務)	A		自由記述欄の回答を精査することで，不十分な点や不満な点を抽出したが，平成27年度は質問項目を考える．(教務)
10	Ⅰ	1	(1)	②	小中学生を対象とした公開講座の実施															○	○	○	○	○	○	○			中学生向け公開講座「ソラーカーを作ろう」を7/24(木)～25(金)、8/6(水)～7(木)の2回開催した。 (機械) 7月24日(木)、25日(金)の2日間、電気電子工学科主催、九州パワーアカデミー共催で中学生向け公開講座「エレクトロニクスサマースクール」を開催した。今年度は事前の広報活動が不足していたためか、8名の参加者であった。 また、8月19日、20日の両日、平成26年度一日体験入学を実施した。3月28日(土)には、小学生向け公開講座(FMラジオ作製)を行う予定。(電気) 実施予定なし。(制御) 2014年7/31 化学への招待～楽しい生物・化学教室～(中学生20名，小学生20名参加)を実施した公開講座は，学校の計画にしたがって実施。(生化) 7月30日，31日開催(それぞれ10名)テーマ：「金属を溶かして青銅鏡を作ってみよう」(材料) 学科として講座の開設は行っていないが、高等教育コンソーシアムや久留米市主催の各種市民講座に講師を派遣している。(文) 7月24日，25日の2日間開催し、数学と理科の中学校で普段受けている授業とは違う数学や理科を中学生対象に公開講座「あなたも一日サイエンティスで体験してもらった。(理)	A(機) A(電) B(生) A(材) C(文) B(理)	A		今年度と同様の内容を実施する。(機械) 引き続き実施する。(電気) 次年度の実施について検討する。(制御) 中学生向けの公開講座を実施する予定。(材料) 実施が可能かどうか学科で検討する必要がある。(文) 今年度と同様の公開講座実施に向けて、理科内で検討している。また、小中学生対象の科学入門講座を実施したい。その際、学生をTAまたは講師として任用したい。(理)
11	Ⅰ	1	(1)	②	女子寮のPR		◎		△																			10月以降の学校説明会では，入寮者の地域を説明し遠方の学生は入寮できることをアピールする．(教務) 本校学生を対象に体験入寮を前期2回実施し，後期も2回実施(女子の希望者はなし)。8月の一日体験入学においては，女子寮を含め30名程度の見学者を迎えた。また、10月の学校見学会で約30名，11月の学校説明会で2名の見学者を女子寮に迎え，寮生会を中心に対応した。なお在学生を対象とした計4回の体験入寮では女子の入寮希望者はなかった。(寮務)	A(教務) A(寮)	A		学校説明会では，快適なこと，必要性のある者は入寮できることを機会を捉えて広報する．(教務) 学校見学会，説明会において寮生の協力を得ながら学生寮のPRを行い，新入生及び在校生の入寮に努める。(寮)
12	Ⅰ	1	(1)	②	女子中学生向けパンフレットの活用および高専女子百科Jr.の久留米高専版の発行検討		○																					きらきら高専ガールを一日体験入学や学校説明会で配布した．高専女子百科Jr.の久留米高専版は本年度は見送る．(教務)	B(教務)	B		「きらきら高専ガール」を活用する．高専女子百科Jr.の久留米高専版は見送る．．(教務)
13	Ⅰ	1	(1)	③	学科別パンフレットの作成検討		◎													△	△	△	△	△					検討依頼。(教務) 実施なし。(制御) 中学生向配布用パンフレットを作成(材料)	A(教務) A(材)	A	A	来年度引き続き検討。(教務) 来年度引き続き検討。(制御) 作成予定なし(材料)
14	Ⅰ	1	(1)	③	中学校への本校紹介情報充実		○																					中学校訪問で持参する資料が10を超え，中学校側としても要点をつかみにくいことの対策として，A3一枚に説明要旨をまとめたものを用意し，訪問先中学校にお渡しした．(教務) 本科卒業後の進学先として、大学編入と専攻科進学があることを周知。(専攻科)	B(教務)	A		ニーズに合わせた資料を作成する．(教務)
15	Ⅰ	1	(1)	④	入試成績と入学後の成績調査に基づく入試制度の検討		○			○																		入試運営委員会(臨時，8月7日)で第一志望～第三志望間のハンディについて検討した．(教務) 前期、後期入試後、検討した。(専攻科)	B(教務) A(専)	A	A	科目の最低点や傾斜配点等の効果を検討する．(教務) 他校の専攻科の事例なども調査し本校の改善に繋がるものは本校の事例に活かす。(専攻科)
16	認外	1	(1)	④	入学動機に関するアンケート調査、分析および対策検討		○																					新入生に対し機構本部所定の質問事項のアンケートを4月末に実施し，機構へ報告するとともに5月14日開催の教員会議で概要を報告した．(教務) 春に入学者に対し専攻科でアンケートを実施。(専攻科)	A(教務)	A		ここ数年大きな変化は見られないが，変化の兆候がないか慎重に見守る．(教務)
17	Ⅰ	1	(1)	⑤	アドミッション・ポリシーの教職員への周知および社会への公表		○			○																		学校要覧(P.2)，本科募集要項(見返し)，入学案内リーフレット(P.1)に記載し，教職員へ周知するとともに，社会へ公表している．受験生とその保護者に向けてはこれらに加えて，学校説明会や一日体験入学の際にスライドで説明している．(教務) Webページの中に表示した。(専攻科)	A(教務) A(専)	A	B	各学科での掲示を行うとに，本校での学校説明会や福岡市および佐賀市での合同説明会で説明を行う．(教務) 特例適用専攻科に関連し、募集要項を変更するのに合わせ表記場所等も検討する。(専攻科)
18	Ⅰ	1	(1)	⑤	アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜の実施		○			○																		入試運営委員会(第3回，7月18日)で，募集要項記載のアドミッションポリシーを確認した．(教務) 前期入試実施済み。後期入試実施済み。(専攻科)	A(教務) A(専)	A		推薦入試でアドミッション・ポリシーに基づく質問を行う．本校での学校説明会や福岡市および佐賀市での合同説明会で説明を行い受験者に周知する．(教務) アドミッションポリシーを維持して学力問題の作成に当たる。(専攻科)

19	Ⅰ	1	(1)	⑤	アドミッション・ポリシーの検証とそれに基づく入学者選抜方法の改善検討					○			○																		検討予定.（教務） 入学試験での足切点について検討を実施した（入試運営委員会）。専攻科入試の検討に着手した。（入試運営委員会、専攻科）	D(教務) A(専)	A		専攻科入試の科目について検討（入試運営委員会、専攻科）
20	認	1	(1)	⑤	△ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝﾎﾟﾘｼｰに対応した入学者選抜基本方針の策定および周知方法検討					○			○																		現ポリシーの周知は行ったが，入学者選抜基本方針の策定には至らなかった.（教務）	C(教務)	C		様々な機会でのアドミッションポリシーの周知に努める．入学者選抜基本方針の策定を検討する.（教務）
21	Ⅰ	1	(1)	⑤	専攻科推薦入学志願者記載項目の改善等検討								○																		検討中（専攻科）	B（専）	B		
22	Ⅰ	1	(1)	⑥	過去の入試問題・解答の公表					○																					推薦入試（1月中下旬実施）の適性検査（数学）の問題を平成24年度～平成26年度分について本校Webページに掲載している．学力入試については，同じく平成24年度～平成26年度分の問題と解答が掲載されている機構本部のWebページへリンクを設定している．また，推薦，学力とも最近の問題実物を1日体験入学の際に展示している.（教務） 問題のみ学生課で開示対応継続。（専攻科）	A(教務)	A	A	公開対象となるものは公開する.（教務）
23	Ⅰ	1	(1)	⑥	実入学者数の適正化					○			○																		平成26年度の入学定員は40名×5学科の200名であり，合格者数は各学科42名×5学科の210名とした．これに対し，入学者は総数で206名，学科別では機械42名，電気電子42名，制御情報41名，生物応用化学40名，材料41名であり，総数，学科別とも適正な範囲内であった.（教務） 特例適用専攻科の申し出書類作成過程で、大学評価・学位授与機構は5年間の平均で70%～130%を適正の目安としている。本校専攻科は両専攻とも約150～200%程度となる見込みであるが、特例適用認定専攻科の学習総まとめ科目は学位申請の5分野でこれらの入学者への対応可能。（専攻科）	A(教務) A（専）	A		過去数年の入学辞退者の動向や中学校での指導の状況をふまえて，適正な合格者数を決定する.（教務） 定員の確保に努め、概ね150%程度を維持する。（専攻科）
24	Ⅰ	1	(1)	⑥	有明高専との福岡市入試同一試験会場開設					○																					平成27年2月15日の本科入試学力検査について，福岡市検査場を有明高専と合同で設ける計画であり，募集要項に記載している.（教務）	A(教務)	A		継続して実施する.（教務）
			(2)教育課程の編成																																
25	Ⅰ	1	(2)	①	高度化再編と新分野の学科の可能性検討					◎				△																	5月16日企画委員会および5月22日学科長委員会において、高度化再編、学科大括り、新分野学科設置及び学科改組等に関して検討し、材料工学科の改組およびn 型教育のカリキュラム改正を検討していくこととなった。（企画）（教務）	A(教務) A(企)	A	A	次年度は、本事項を、「高度化再編と材料工学科の改組検討」に変更する。（教務）（企画）
26	Ⅰ	1	(2)	①	学科の大括りやコース制導入高専の動向調査					○																					平成27粘度より大くくり化（1学科5コース）を行う北九州高専の意図，検討事項等について情報主周する.（教務）	B(教務)	A		平成27年度より大括りを行った北九州高専の入学志願者が減少した状況を調べる.（教務）
27	Ⅰ	1	(2)	①	専攻科生の学位授与機構への学位審査申請								○																		認定専攻科としての従来制度に対応して2年生が申請、12月の試験受験。（専攻科）	A（専）	A		認定専攻科の「教育の実施状況等の審査」を受審するので十分な対応を図る。（専攻科）
28	Ⅰ	1	(2)	①	新学位授与制度への移行								○																		特例適用専攻科の制度導入に合わせ、申し出し審査。特例適用が本校の2つの専攻、5つの学位申請分野について認められた。（専攻科）	A（専）	A		総まとめ科目の内容の周知（専攻科志願者、専攻科1年生）（入試運営委員会、専攻科）
29	Ⅰ	1	(2)	①	n 型（専門+コミュニケーション）カリキュラムの検討（理事長ヒアリング）					○													○	○	○	○	○	○	○		平成27年度入学者のカリキュラムを一部改訂（機電）した。（専攻科） 各学科の専門科目をお互いに専門選択科目にするという構想を提案している。（機械） 学科において検討を行い、本学科として必要な科目として、生物系の科目（遺伝子等）、会計学（外部非常勤）が候補として上がった。（電気） 議論をした。（制御） 2014年度生化4年生の応用化学実験（卒業研究の仮配属）に一般理科化学系（宮本，黒飛）の教員の参画が始まった（生化） 学科内で検討し，改組あるいは改称案を策定した。校長への説明待ち。（材料） 英語に関しては現時点での課題について検討を始めた。（文） 一般化学の教員が、認定専攻科の特例方式の応用化学分野に判定を依頼した。（理：宮本、黒飛）	C(教務) A（機） B(電) C（制） B（生） A（材） C（文） B(理)	A		学校としての方針，方向性を示す（教務） 学内方針に従って議論を進める（機械）。 今後どのようにしていくのか、学校としての方針を示していただきたい。（電気） 来年度も検討。（制御） 学科改組あるいは改称に向け学科内で検討を行った。次年度は学校としてのバックアップの基に実現に努力する。（材料） 継続（文） 一般化学の教員が、認定専攻科の特例方式の応用化学分野に「適」になったので、専攻科生の受け入れの準備を行う（理：宮本、黒飛） 一般理科化学系（宮本、黒飛）へ生物応用化学科の卒業研究先を受け入れる。（生化・理：宮本、黒飛）
30	Ⅰ	1	(2)	①	材料工学科改組検討（理事長ヒアリング）																					○					学科内で改組あるいは改称案を策定した。校長への説明待ち。（材料）	A（材）	A		学科内で検討を行った。次年度は学校のバックアップのもとに実現に努力する。（材料）
31	Ⅰ	1	(2)	②	教育課程表及び教務に関する規程の諸問題の検討					◎									△												特例専攻科の学位認定新方式導入にあたり，専攻科のカリキュラムを一部変更した.（教務）	A(教務)	A	A	引き続き検討していく。（教務）
32	Ⅰ	1	(2)	②	新入生「数学」学力診断テストの実施およびその結果を反映した授業構成実施																							○			テスト結果の分析により、年度ごとの新入生の学力を把握することが容易となり、入学者のレベルに合わせた指導方法を工夫することが可能となった。（理）	B(理)	B		テスト結果の分析により、年度ごとの新入生の学力を把握し、入学者のレベルに合わせた指導方法を工夫する。（理）
33	Ⅰ	1	(2)	②	数学診断テストの実施による入学者学力水準確認					◎																		△			6月18日開催の平成26年度第1回FD会議で「本校学生の学力の現状と課題」で最近の傾向が報告された.（教務） 数学の新入生学力診断テストを実施し、入学者選抜結果と入学後の学業成績についての追跡調査を継続して実施した。（理）	A(教務) B(理)	A		数学の新入生学力診断テストを実施し、入学者選抜結果と入学後の学業成績についての追跡調査を継続する。（理）（教務）
34	Ⅰ	1	(2)	②	「数学」「物理」学習到達度試験実施およびその結果に基づく授業方法改善の実施																							○			平成26年1月14日に実施した。結果を分析して授業に反映させている。（理科）	B(理)	A		平成27年1月15日に実施した学習到達度試験の結果を分析して授業に反映させる。また、学生が自ら、自分がどの程度基本を理解しているかを確認する機会としても利用していく。（理）
35	Ⅰ	1	(2)	②	「物理」「化学」の学生の関心を高める実験方法、項目の検討																							○			［物理」では関心を高めるというよりも、主に必要な知識・技術を身につけさせるという観点から項目を検討している。学生にどのような力をつけさせるか考え、各教員工夫している。また、応用物理実験においては、教育研究支援室の協力により自作した装置を用いている。学生が自分で装置を組み立てるようになっており、実験における装置の初期設定や調整を学生自身が行っている。これにより、実験室に行ってそこにある装置でデータを取るだけではなく、実験に際して初期設定・測定時の調整などの大切さ・難しさを体験させている。（理）	B(理)	A		「物理」これまで通り工夫を続け、実験装置の改良や新規実験装置の作製に取り組んでいく。「化学」新しいスタイルの化学実験への改善に取り組んでいく。（理）
36	Ⅰ	1	(2)	②	TOEICおよび英語外部評価テスト(1,3年)の実施					◎																	△				TOEIC IP　テストを前期は4月12日に実施した．後期は10月と1月に実施予定である.（教務） 英語外部評価テストは1年生が4月，3年生は6月に受験した.（教務）	A(教務) A(文)	A		実施を周知し受験を勧める.（教務） 継続（文）
37	認外	1	(2)	③	学生の授業評価アンケート実施、分析および対策検討														○												25年度の学生授業評価アンケートを集計・分析し、報告書にまとめると共にWeb公開した。また、26年度前期および後期の授業評価アンケートを実施した。（授業） 外部評価テストは4月（1年生）と6月（3年生）に実施した。TOEIC　IPテストも予定どおり4月に実施した。（文）	A（授）	A	A	26年度の学生授業評価アンケートは集計・分析し、報告書にまとめると共にWeb公開する予定である。また、27年度前期および後期の授業評価アンケートを実施する予定である。（授業）
38	外	1	(2)	③	学生の授業評価アンケート項目の見直し（外部評価委員会指摘内容等）														○												授業改善専門部会において、昨年度より学生の授業評価アンケートの改訂を検討し、アンケート用紙の印刷および集計を含めた予算申請を今年度行った。しかしながら、今年度は、採択されず見直しするに至らなかった。（授業）	B（授）	B		次年度ももアンケート項目については検討していく予定である。（授業）
39	Ⅰ	1	(2)	③	学生の授業評価アンケート結果に基づく教員の自己評価実施														○												25年度の学生授業評価アンケートの集計結果を各教員に返却し、25年度の教員自己評価アンケートを実施した。集計・分析し、報告書にまとめると共にWeb公開した。（授業）	A（授）	A		27年度の教員自己評価アンケートを実施する予定である。（授業）
40	認外	1	(2)	③	卒業生・修了生アンケートの実施、分析および対策検討									○																	25年度の卒業生・修了生アンケート結果の集計・分析を行い、本年度第1回自己評価検討委員会にて報告し、対策を検討した。26年度も卒業・修了予定者に対してアンケートを実施する予定である。（企画） 過去10年の専攻科卒業生と就職先または進学先にアンケートを実施，回答回収中（生化）	A（企）	A		次年度も卒業・修了予定者に対してアンケートを実施、分析し対策を検討する。（企画）
41	認	1	(2)	③	△卒業生・修了生アンケート項目の具体化									○																	第1回自己評価検討委員会での議論の結果を基に、アンケート項目の見直しを検討したが、具体化する内容変更までは至らなかった。（企画）	B（企）	A		次年度も卒業生・修了生アンケート項目の具体化について検討する。（企画）
42	Ⅰ	1	(2)	③	卒業生・修了生アンケート項目の見直し（第1回自己評価検討委員会指摘事項）									○																	第1回自己評価検討委員会での議論の結果を基に、アンケート項目の一部見直しを行った。（企画）	A（企）	A		次年度は、項目の具体化について見直しを行うため本項目は削除する。（企画）
43	Ⅰ	1	(2)	③	授業改善を行うためのPDCAサイクル運用														○												25年度の学生授業評価アンケートおよび教員自己評価アンケート報告書を作成しウェブ上で公開し、情報を全教員で共有し、授業改善に役立てている。（授業）	B（授）	A		次年度も同様に行う予定である。（授業）
44	Ⅰ	1	(2)	③	学習教育目標の達成度評価方法の検討					○			○																		平成25・26年度高専機構特別教育研究経費事業「分野別到達目標の設定法とその評価法に関する研究と実践」に参加し，モデルコアカリキュラムと達成度評価について情報収集を行っており，ルーブリックによる達成度評価のWebシラバスのパイロット入力を生物応用化学科で行った.（教務） 生化以外の学科でのルーブリックによる到達度評価を含むWebシラバスの入力準備を始めた.（教務）	B(教務)	A		ルーブリックについて校内の理解を促す.（教務） 各コースで実施している達成度評価について調査する。（専攻科）
45	Ⅰ	1	(2)	④	全国的な競技会やコンテストへの積極的参加						○																				スポーツ関係では、団体としては男子バスケットボール部・男子バドミントン部・ラグビー部が全国高専体育大会に出場した（ラグビー部は全国大会3位）。他にもいくつかのクラブが九州沖縄地区高専体育大会で優秀な成績をおさめている（硬式野球部（準優勝）、ハンドボール部（第三位）、女子バドミントン部（第三位）、男子バレーボール部（第三位）、柔道部（第三位））。個人としては、陸上、女子バドミントン、水泳が全国大会に出場した。このうち女子バドミントンダブルスが全国大会において準優勝の結果をおさめている。コンテストには、スーパーコン2014、2014柳川ソーラーボート大会、第35回全国高等学校クイズ選手権、九州沖縄地区国立高等専門学校英語弁論大会（暗唱の部第二位）、ロボットコンテスト、プログラミングコンテストなどに出場した。（学生主事）	A（学）	A	A	今年度参加した大会等には参加できるように、また、新たな大会等にはできるだけ参加しやすいように支援していきたい。（学生）
46	Ⅰ	1	(2)	⑤	社会奉仕体験活動や自然体験活動への参加推進						○																				学生会のボランティア活動として以下の項目を実施した。6月：献血、7月：清掃、12月献血、3月：清掃。7月と3月の清掃は、校内だけでなく小森野地区の清掃、一番街のゴミ拾いも行った。（学生主事）	A（学）	A	A	今年度同様、学生会に小森野地区の清掃活動などを企画させ、地域に愛される久留米高専をめざしたい。（学生）
47	Ⅰ	1	(2)	⑤	1年生合宿研修の実施						○																				4月25日、26日に実施した。今年度も学生会主導で実施した。学生会主導による合宿研修が定着することを期待したい。（学生主事）	A（学）	A		8日・9日で実施予定。学生会には取り仕切るように依頼している。（学生）
48	Ⅰ	1	(2)	⑤	特別活動の実施					△	◎																				ほぼ週に一度のペースで特別活動を実施し、教務関連事項や学生生活にかかわる情報を学生に周知している。そのほかにも交通講話・暴力団排除教育（1年生対象）、ケータイ安全教室（1～3年生対象）を実施した。今年度は、インターンシップ受講生を対象としたビジネスマナー講習会を6月に実施し、150名の参加があった。（学生主事）	A（学）	A		今年度同様に活動していく。（学生）

49	I	1	(2)	⑥	学生自身による達成度点検の実施					○	○	○	○	○				機械コースの専攻科1年生全員に対して、本科での達成度自己評価を実施した。(機械) 6月4日に専攻科電気電子工学コースの中間面接を専攻科1年生に実施した。この面接では、学生自身がこれまでの学習状況の達成度を点検し、それを元に今後の目標を設定するものである。後期においては、専攻科進学予定者に対して、目標の確認作業を行わせた。また、実施を忘れることのないように、担当者の予定表を作成した。(電気) 学生に単位取得状況の確認を実施した。(制御) JABEE自己点検EXCELシートを作成し，学生に成績を入力してもらい，JABEE目標達成状況がグラフ化されるようにしている。4月に，2013年度分を実施し，教員のコメントを加えた。バージョンアップを行いJABEEの新規目標(F)に対応した。(生化) 専攻科進学者に対して4月に実施.（材料）	A(機) B(電) A(制) B(生) A(材)	A	A	次年度も、今年度と同様に機械コースの専攻科1年生に対して、本科での達成度自己評価を実施する(機械)。 学科としては、ルーチン化している事項なので、予定に沿って進めていく。(電気) 実施した。(制御) 専攻科進学者に対して4月に実施.（材料）
50		1	(2)	⑥	専攻科入学生・修了生自身による総合達成度評価の実施		○											専攻科入学時、修了時アンケートを行い評価を実施した。(専攻科)	B(専)	A		総合達成度評価でJABEEに関連する達成度評価と統合できないか検討する。(専攻科)
51	認外	1	(2)	⑥	専攻科修了生の就職先企業を対象としたアンケート調査実施、分析および対策検討					○	○	○	○	○				アンケート調査は、カリキュラム改訂後の修了生が出たのちに行う予定であるため、今年度は実施の予定なない。(機械) これまでの修了生全員に対して発送を行い、今年度中に回収の予定である。(電気) 実施した。(制御) 2013年度に前回調査後に終了した専攻科生と就職先企業にアンケートを実施し，集計の後カリキュラム改善委員会で分析した。(生化 材料工学科卒業生に対し，カリキュラム等に対するアンケートを実施した。(材料)	B(機) B(電) B(制) B(生) A(材)	A		次年度カリキュラム改訂後初めての修了生が出るので、その次の年度にアンケートを実施したい(機械)。 新年度前半にアンケートを集計し、今後の教育・研究方針の策定の参考とする。また、JABEE審査にも利用の予定。(電気) 実施した。(制御) 専攻科修了生を含めアンケートを実施した結果に基づいて，今後の学科改組あるいは改称向け努力を行う。JABEEについては，58%が必要なしと回答しており，今後のJABEEを受審しないよう，会議で提出したい。(材料)
			(3)優れた教員の確保																			
52	I	1	(3)	①	教員の適正配置(教授・助教数,学校・学科教員数)	◎				△	△	△	△	△	△	△		昨年から大きな変更は無く，適正な配置が行われている.（教務） 特になし。(電気) 教授：4，准教授：5，助教：2(制御) 教授：6，准教授：5，助教：1(生化) 教授：5名，准教授：4名，講師：1名(材料) 教員は適正に配置されており、今年度は、新規採用、教員の昇任、移動等はない予定である(理)	A(制) B(生) A(材) B(理)	A	A	退職教員の1年間不補充への対応を考える.（教務） 教授：5名，准教授：4名，助教：1名(材料)の体制で，教育研究を行う(材料) 数学教員を1名新規採用する予定である。また、在外研究期間中の1名(数学)の補充のためベテランの非常勤講師を採用する予定である。(理)
53	I	1	(3)	①	公募制による教員採用	◎				△	△	△	△	△	△	△		4月1日採用の2名は公募によった. 本年度は5名(機械2，材料1，生化1，一般文科2、一般理科1)すべてを公募して，選考を行った.(教務) 該当なし。(電気) 該当無し(制御) 生物系助教を採用した(生化) H27.4.1採用で公募中(材料) 退職に伴い英語教員と社会科教員を公募により採用した。(文) 4月に京都大学から、公募により黒飛准教授が採用された。数学教員が一名転出することになり、公募をした。(理)	A(教務) A(機) B(生) A(材) B(理)	A		公募による採用を継続する.（教務） 採用2名を公募により決定した(機械)。 H27年4月1日新しく助教を採用(材料)。 数学教員を1名新規採用する予定である。(理)
54	I	1	(3)	①	多様なキャリアを有する教員の採用	◎				△	△	△	△	△	△	△		該当なし。(電気) 該当無し(制御) 女性の生物系助教を採用した(生化) H27.4.1採用で公募中(材料) 英語教員と社会科教員を公募し、海外への留学・調査経験のある教員を採用した。(文) 数学教員が一名転出することになり、公募をした。(理)	A(機) B(生) A(材) B(理)	A		国立大学教員と私立大学教員からそれぞれ1名採用を決定した(機械)。 H27年4月1日京都大学物質一細胞統合システム拠点で特定研究員をされていた人を採用(材料)。 数学教員を1名新規採用する予定である。(理)
55	認	1	(3)	①	△科目担当教員(本科・専攻科)専門分野・経歴・資格管理一覧表作成・管理検討	○											○	人事係が基礎的データ保持している.（教務）	B(教務)	B		人事係で一覧表を更新する体制を検討する。(教務)
56	I	1	(3)	②	高専間及び技術科学大学との教員交流実施	◎				△	△	△	△	△	△	△		H27年度募集 佐世保高専から1名を受け入れ中である。(教務)(電気) 該当無し(制御) 該当無し(生化) 該当なし(材料) 該当なし(文)	A(教務) A(機) B(材)	A	A	1名交流決定(機械)。 計画なし(材料)
57	I	1	(3)	③	博士の学位同等(専門学科と一般理科)の教育能力を有する教員の新規採用	◎				△	△	△	△	△		△		該当なし。(電気) 該当なし(制御) 新規採用にあたり、公募要件に学位を求めている。(生化) 新規採用にあたり，公募要件に学位を求めている.（材料） 4月に京都大学から、公募により博士を取得している黒飛准教授が採用された。数学教員が一名転出することになり、博士を有し、高校数学免許を持った教員の公募をした。(理)	A(機) B(生) A(材) B(理)	A	A	公募要領に明記するとともに，業績から判断する.（教務） 新規採用2名とも博士取得者である(機械)。 新規採用があれば,公募用件に学位を求める。(材料) 博士を有し、高校数学免許を持った数学教員を1名新規採用する予定である。(理)
58	I	1	(3)	③	修士の学位同等(一般文科)の教育能力を有する教員の新規採用	◎									△			博士号保有者を一般文科教員(英語)として平成26年4月に採用した.（教務） 該当無し(生化、材料) 平成27年4月に着任予定の教員は、英語教員は修士、社会科教員は博士の学位を有している。(文)	A(教務)	A		公募要領に明記するとともに，業績から判断する.（教務）
59	I	1	(3)	③	博士の学位同等(専門学科と一般理科)の教育能力を有する教員比率70%以上	◎				△	△	△	△	△		△		条件を満たしている.（教務） 達成済み。(電気) 現在学位を取得している教員1名を除き、全員博士の学位同等の教育能力を有するため、比例は91％(制御) 博士の学位を有する教員100%(生化) 博士の学位を有する教員(80%)(材料) 一般理科は博士の取得者比率が82%である。(理)	A(教務) A(機) A(制) B(生) A(材) B(理)	A		公募要領に明記するとともに，業績から判断する.（教務） 教員全員が、博士または技術士の取得者となる見込みである(機械)。 博士の学位を有する教員(90%)(材料) 博士を有した数学教員が去り、博士を有した数学教員を採用するため、教員比率は変わらない予定である。(理)
60	I	1	(3)	③	修士の学位同等(一般文科)の教育能力を有する教員比率80%以上	◎									△			条件を満たしている.（教務） 該当無し(生化、材料)	A(教務)	A		公募要領に明記するとともに，業績から判断する.（教務）
61	I	1	(3)	④	教員採用において女性志願者が増加する工夫の実施	◎				△	△	△	△	△	△	△		7件の教員採用で，応募資格に男性と同等以上であれば，女性を採用すると記載した. また，学位取得見込み者対象の教員職体験インターンシップを12月実施に予定で，10月に全学科受入可として公募する.（教務） 特になし。(電気) 該当無し(制御) 教員職体験インターンシップ受入2014/12/08-10(生化) 新規採用にあたり，応募資格に男性と同等以上であれば，女性を採用すると記載した.（材料） 公募文書に女性の積極的な応募を期待し、同等の力量であれば女性を積極的に採用する旨記載している。本年度の公募では、英語では3名、社会では6名、女性の応募があった。(文) 公募要件に女性の積極的な応募を期待し、同等の力量であれば女性を積極的に採用する旨記載している。(理)	A(教務) C(機) B(生) A(材) B(理)	A	A	能力が同等と認められる場合は女性を優先することを公募要領に記述する.（教務） 公募時に女性教員を優先的に採用する旨の記載を行ったが、次年度女性教員の着任予定はない(機械)。 応募資格に男性と同等以上であれば，女性を採用すると記載する.（材料）
62	I	1	(3)	⑤	高専機構主催の教員研修、全国高専教育フォーラムへの教員派遣	◎				△	△	△	△	△	△	△		平成26年度英語授業講義力強化プログラムに小田准教授が参加した。 平成26年度教員研修(管理職研修)に教務主事が参加し，事前課題した.（教務） 教育評価，CBT問題作成，AL，教材著作権，LMS(BlackBoard)研修に教員を派遣した.（教務） 該当なし。(電気) 該当なし(制御) 本年度該当無し(生化) 周准教授がクラス運営に関する研修会に参加.（材料） 該当なし。(文)	A(教務) A(材)	A	A	精選して派遣する.（教務） 該当者があれば，参加する(材料)
63	I	1	(3)	⑤	FD会議の企画運営			△	○									第1回FD会議(6月)を「本校学生の学力の現状と課題(対策)」をテーマとして実施した。また、第2回FD会議(12月)にて各種の教員研修の報告会を実施した。第3回FD会議(3月)では、学生相談室と連携してメンタルヘルス関連の講演会を実施する予定である。(授業) 高等教育コンソーシアム久留米参加大学で教職員の能力向上を図ることを目的として、相互協力の基にFD及びSDの実施に関する覚書を締結した。(産学民)	A(授)	A		次年度も同様に実施する予定である。(授業)
64	I	1	(3)	⑥	「功労賞」の募集、審査、授与、表彰の実施	○												推薦無し(教務)	B(教務)	B	B	次年度も同様に実施する予定である。(教務)
65	I	1	(3)	⑥	機構実施の「教員顕彰制度」への推薦	○												黒木准教授を推薦した.（教務）	A(教務)	A		該当者があれば推薦する.（教務）
66	I	1	(3)	⑦	国内外研究員の派遣	◎				△	△	△	△	△	△	△		該当なし。(電気) 該当無し(制御) 該当無し(生化) 該当なし(材料) 該当なし。(文) 平成27年度在外研究員(理：酒井道宏先生)	B(教務) C(機) B(材) B(理)	B	B	在外研究期間中は5コマ分までの非常勤講師費用が予算申請できることを周知し，積極的応募を促す.（教務） なし(材料) 平成27年度に在外研究員として、英国に1年間派遣する。(理：酒井道宏先生)

67	Ⅰ	1	(3)	⑦	教員の国際学会での発表促進						◎													△	△	△	△	△	△	△		教育研究助成による補助を若手教員に行った.（教務） 学科の教員が1件国際学会で発表を行った(機械)。 8月末に1名参加。(電気) 各教員において自主的に参加をしている。(制御) 津田教授10月日中先端芳香族会議(洛陽)で発表(生化) 笹栗教授, 山本准教授が8月国際会議で発表を行った. 岩田准教授が3月に国際会議で発表予定。(材料) 1名発表有。(文) 国際会議で研究発表を行った。(理；酒井先生、菰田先生)	B(教務) A(機) B(制) A(材) B(理)	A		教育研究助成による補助を適正に行う.（教務） 積極的に働きかける(材料) 出席可能な国際会議があれば、参加する。(理)
68	Ⅰ	1	(3)	⑧	教員採用・昇格に関する基準・規定の適正運用						◎													△	△	△	△	△	△	△		適正に運用している。(教務) 該当なし。(電気) 適正に運用している。(制御) 現在のところ該当無し(生化) H27.4助教採用の予定(材料) 適正に運用している。(文) 数学教員の採用に当たり、高校数学免許を持っている方が望ましいとの要件を記載した。(理)	A(教務) A(制) A(材) B(理)	A	B	一般理科の教員の採用する場合、博士号取得者を採用する予定である。(理)
69	認	1	(3)	⑧	○教員採用･昇格基準明文化						○																				○		検討を開始した。(教務)	C(教務)	B		引き続き検討していく。(教務)
			(4)教育の質の向上・改善																																		
70	Ⅰ	1	(4)	①	モデルコアカリキュラムへの対応						△									◎				△	△	△	△	△	△	△		8/7, 8開催の「高専－長岡技科大(機械系) 教員交流研究集会」における 「国立高専機構の教育改革～モデルコアカリキュラム・アクティブラーニング・ルーブリック ～」 勇 秀憲 氏(国立高等専門学校機構 本部事務局教育研究調査室長・教授)の講演を視聴し、機構の最新動向を調査した。 シラバス支援・管理システムへのパイロット入力について、部会において生物応用化学科から報告をお願いしたかったが実施できず。(教育部会) モデルコアカリキュラムに定めてある事項を網羅したシラバスにしたがって、授業を行った(機械)。 検討中。(制御) シラバス支援・管理システムへのパイロット入力を行った(生化) シラバスに反映できるものは反映することを確認した.（材料） 授業科目の到達目標や学習内容について、モデルコアカリキュラムとの整合を図り、シラバスを作成している。(文) 教務主事補の指導の下、対応を図りつつある。(理)	C(教務) A(機) B(制) D(育) A(材) B(理)	A	A	モデルコアカリキュラムと連係するWebシラバスへの入力を勧める.（教務） 今年度と同様に実施予定(機械)。 来年度も引き続き検討。(制御) シラバスに反映できるものは反映する予定.（材料） 引き続き対応していく。(理)
71	Ⅰ	1	(4)	①	ICT活用教育取組み実情把握および導入検討						○													○	○	○	○	○	○	○		平成27年度の導入がアナウンスされたラーニングマネジメントシステム(LMS)・BlackBoard講習会を受講する.（教務） CAD演習、機械要素設計実験、機械工学実験(FEMによる弾性解析)などで、ICT活用教育に対しては十ｬﾝに取組みを行っている。(機械) 校長裁量経費により導入した大型液晶モニターをコミュニケーション教育のみならず、プログラミングなどの座学にも活用している。また、プログラミングの講義では、外部講師による講義をSkypeを用いて実施した。(電気) 実験にはICTを導入していた。(制御) 汎用プロセスシミュレータgPROMS(英国PSE社)を実際に使用して, CAE技術利用の意義と方法論を理解・修得する化学工学特論を実施している。(生化) 実施していない.（材料） 英語のe-learning教材ネットアカデミーを含めたCALLシステムの導入が完了し、授業中および授業外での学習に活用している。(文) 一般化学で指導用デジタル教科書の購入を行っている。(理)	B(教務) A(機) A(電) A(制) D(材) B(文) B(理)	A		平成27年度の導入がアナウンスされたラーニングマネジメントシステム(LMS)・BlackBoardについて情報収集する.（教務） 今年度と同様に実施予定(機械)。 引き続き、効果的な利用法について検討し、逐次実施していく。(電気) 来年度引き続き実施する。(制御) 実施の予定なし。(材料) 全科目で取り組むべきかどうか検討が必要。(文) 一般化学で指導用デジタル教科書の活用を行う予定である。(理)
72	Ⅰ	1	(4)	①	教材共有化の他高専の取り組み状況把握						○													○	○	○	○	○	○	○		機構の教材の著作権研修(3月)を受講する.（教務） 平成27年度の導入がアナウンスされたラーニングマネジメントシステム(LMS)・BlackBoard講習会を受講する.（教務） 設計工学担当教員が、日本設計工学会九州支部主催の研究会「幾何公差をどう教えるか」に参加し、製図教育における他高専の取り組み状況の把握を行った。(機械) 特になし。(電気) 該当なし(制御) 教材共有化については検討していない。(文) 長野高専、有明高専の化学実験の状況をやり取りしてる。(理)	A(教務) B(機) D(材) D(文) B(理)	A		機構の教育改革推進本部の動向に注意する.（教務） 今年度と同様に実施予定(機械)。 他高専に倣うよりも、本校の学生に適した効果的な教育を実施・改善しているため、学科として必要性を感じない。よって、評価もしない。(電気) 実施の予定なし。(材料) 学科として取り組むのは難しい。(文) 北九州高専の取り組み状況も把握する。(理)
73	Ⅰ	1	(4)	②	学位認定者のJABEEプログラム修了認定および認定の通知									◎										△	△	△	△	△				JABEE委員会で修了者を確認、総務課より各個人宛て修了証を送付(専攻科) 25年度6名を認定(機械)。 例年通りで、25年度6名を認定。(電気) 実施した。(制御) 2014年度8名を認定した(生化)←学位が取得できていることが前提の見込み 専攻科卒業生に対してJABEEプログラム修了認定の通知を行った.（材料）	A(専) A(機) A(制) A(材)	A	A	JABEE委員会の活動を継続実施する。(専攻科) 今年度と同様に実施予定(機械)。 専攻科卒業生に対してJABEEプログラム修了認定を行う.（材料）
74	Ⅰ	1	(4)	②	JABEEプログラム学習・教育目標およびそれを達成するために必要な授業科目の流れ図の点検および公開									○										○	○	○	○	○				専攻科Webページご更新し、各コースの目標を理解しやすく公表する工夫をした。(専攻科) シラバスに公開している。追加されたJABEE教育目標がすでにプログラム目標に定められていることを確認した。(機械) 例年通り実施済み。(電気) 4, 5年生を対象に説明した。(制御) 専攻科卒業生と就職先企業にアンケートを実施し, 集計解析分析を実施した(生化) 継続的に実施中(材料)	A(専) A(機) A(制) A(電) A(材)	A		シラバスへの掲載を継続実施する。(専攻科) 今年度と同様に実施予定(機械)。 引き続き実施する。(電気) 継続的に実施中(材料)
75	Ⅰ	1	(4)	②	資格試験や検定試験の受講に対する支援																			○	○	○	○	○	○	○		・日本機械学会の計算力学技術者認定の公認講習会になっている機械工学実験(FEMによる弾性解析)を前期に実施した。同科目の単位取得者は、日本機械学会への申請により、計算力学技術者初級に認定されるとともに、同2級の講習会受講が免除される。(機械) ・CAD技能検定(CSWA)を8/6、8/7に実施した。(機械) 英検、TOEICや電験、電気工事士資格試験等の受験を奨励している。また、英検2級以上、電験3種以上の資格を持つ者は、成績とは無関係に編入学試験の際の推薦できることを、学科の指針した。(電気) 該当なし(制御) 危険物取扱者(甲種)の受験奨励(5年生15名受験L3名の合格)、QC検定の受検奨励(生化) 特に整備していない(材料) 英語科ではTOEIC.TOEFL.英検などの受験に備えるための相談に随時応じている。CALLシステム導入に際してTOEIC対策用教材も購入し、利用を促している。(文) 大学院入試や大学編入試験を受験する学生が質問に来るので、各教員で対応している。(理)	A(機) A(電) D(材) B(文) B(理)	A		今年度と同様に実施予定(機械)。 引き続き、学生に対して支援を行う。(電気) 特に整備する予定なし。(材料) 継続(文) 時間の許す限り、各教員対応している。これまでの取り組みを継続していく。(理)
76	Ⅰ	1	(4)	③	専攻科サマーレクチャーの実施検討									◎										△	△	△	△	△				該当なし。(電気) 該当なし(制御) 該当なし(生) 来季に向けて検討を行った。(材料)	B(専) B(材)	A	A	秋季に翌年度の実施について各コースに打診する。(専攻科) 実施する予定。(材料)
77	Ⅰ	1	(4)	④	創造性を育む教育方法の工夫						○			○										○	○	○	○	○	○	○		5年の機械要素設計実験で、ウインチ、風車などを自由度をもたせて設計、試作させている(機械)。 プログラミングにおいて学生の創造性を育む授業を行っており、思いもよらないプログラムができあがり、体験入学などで公開している。専攻科の創造工学実験は例年通り実施しており、ユニークな装置が多くできあがっている。(電気) 創造工学実験、卒研や専攻科研究論文では実施した。(制御) 2014年度4C学生(36名)全員が, 短期インターンシップに夏期休業中に参加し, 9月に報告会を実施した。本年度は, アステラスファーマテック, テバ製薬を新規に開拓した。(生化) 専攻科の創造工学実験いおいて材料工学科興味を持てる中学生向けの教材開発のテーマで実施. そのうち4テーマについて8月に実施した一日体験入学の演示実験で披露した.（材料） 一般文科では基礎学力と豊かな人間性を育むことに重点を置いているが、その一環として、論述式の試験、自分の考えや調べた内容を発表する授業などを通じて、思考力・表現力の向上を図っている。(文) 各教員が授業を通して、学生たちが単に数式や文言の丸暗記するのではなく式や法則の成り立ちや理論的背景を理解するように、また、学生たちの論理的思考力を育てるように工夫を重ねている。創造性を伸ばすために必要な基礎学力を身に着けさせるよう、日々努力と工夫を重ねている。(理)	A(機) A(電) A(制) A(材) B(文) C(理)	A	A	産業デザイン演習(もしくは新科目)の平成28年度実施方法について平成27年度前半に検討する。(専攻科) 今年度と同様に実施予定(機械)。 他の科目に於いても、教育方法の工夫を検討する。(電気) 来年度引き続き実施する。(制御) 専攻科の創造工学実験いおいて材料工学科興味を持てる中学生向けの教材開発のテーマで実施し, . その中でよいものは, 一日体験入学で演示実験を行う予定.（材料） 継続(文) これまでの取り組みを継続していく。(理)

78	Ⅰ	1	(4)	④	各学科の教育に関する特色ある取組みの促進																	○	○	○	○	○	○	○			・CAD/CAM/CAEに加えて、CAD/CAM/CAEにより設計、製作したものの実証実験までを行っており、それによる技術者としての実務能力向上をめざすことを特色とする機械要素設計実験を実施した。(機械) “エネルギー、エレクトロニクス、実践的コミュニケーション、Energy, Electronics and Practical ommunication”に基づき、教育を進めている。エネルギーに関しては、補正予算により、さらに機器・装置類が充実したため、それらを用いた学生実験の改善を進めている。また、コミュニケーションについては、英語教育をこれまで通り推進している。(電気) 今年度ものづくりセンターのメカトロデザイン実験室を開設し、学生にFPGAを用いたマイコンなどの電子回路の作成で学科の特色に取り組んだ。(制御) 生物応用化学科3年生の「生物化学実験」中「細菌の観察及び解析」実験において，従来使用していた日本ビオメリュー社の「APIテスト」に替えてシステム化を行い高度化を図った。創造的技術者を育成する生物応用化学科基礎系実験プロジェクトにしたがって，分光光度計を導入し，学生実験の高度化を図り，生物工学実験，生物化学実験でテキスト改訂実施した。(生化) 中学生向けの演示実験装置の開発を継続実施中(材料) 国語・社会では学生の創造力や思考力を育てる取組として、作文や論述形式の試験や課題を出している。英語では、多読用図書の購入やCALLシステムの導入によって、学生がより手軽に英語学習に取り組める環境の整備を図り、その活用を進めている。(文) 「原子・分子の世界」を視覚化して、物質の物理的、化学的性質への理解を深めるための取り組みの一つとして、公開講座「あなたも一日サイエンティスト」において、パソコンでの分子デザインを体験してもらった。また、応用物理実験においては教育研究支援室の協力により自作した装置を用いている。これにより、実験における装置の初期設定や調整を学生に行わせ、その大切さ・難しさを体験させている。(理)	A(機) A(電) A(制) A(材) B(文) B(理)	A		今年度と同様に実施予定(機械)。 引き続き、“エネルギー、エレクトロニクス、実践的コミュニケーション、Energy, Electronics and Practical ommunication”に基づき、教育を進める。(電気) 来年度引き続き実施する。(制御) 中学生向けの演示実験装置の開発を継続実施の予定。(材料) 変更(文) これまでの取り組みを継続していく。(理)
79	Ⅰ	1	(4)	④	教育活動の実態を示すデータや資料の収集・蓄積					○			○									○	○	○	○	○	○	○			進路状況などWebページに掲載した(専攻科) 各種データおよびファイルを学科のサーバーに随時アップしている(機械)。 従来通り行っている。(電気) 実施なし。(制御) 学科内のファイルサーバーに，専門科目の答案，レポートのコピーがスキャナーにより取り込まれ分類されてデジタルデータとして保管されており，教員間で共有されている。コピー後の答案，レポートは，学生に返却されている。H26年度は，学生用学科サーバー更新した。(生化) 継続的に実施中(材料) 英語科では外部評価テストの結果を集計・蓄積し、分析している。体育科では学生の体力テストのデータを蓄積している。(文) 特になし。(理)	A(専) A(機) A(電) A(材) C(文) D(理)	A		Webページのデータ更新を定期的に実施し、同時に資料の蓄積をする。(専攻科) 今年度と同様に実施予定(機械)。 引き続き実施する。(電気) 継続的に実施する予定(材料) 変更または中止(文) 教育活動の実態を示すデータや資料の収集・蓄積の検討を行う。(理)
80	Ⅰ	1	(4)	④	全国高専の教育方法の試み、効果的な取組事例調査および全教員への周知					○			○	○								○	○	○	○	○	○	○			教員研修等の報告を第2回FD会議で行い、全教員に周知した。(企画) 「全教員への周知」は学科単位で取り組む課題ではないと思われる。(機械) 特になし。(電気) 該当なし(制御) 高専シンポジウムで来校した他高専の材料系教員との懇談を実施(2014.1.25)(材料) 毎年、九州沖縄地区高専英語弁論大会の際に、英語教員の情報交換会が実施され、他高専の取り組みを参照している。また、COCETの研究論集は英語教員全員に配布されている。(文) 特になし。(理)	A(企) A(材) C(文) D(理)	A		専攻科生に適した教育方法の実施について情報収集を図る。創造工学実験などWebページを通しての情報発信に努める。(専攻科) 次年度も教員研修等の報告をFD会議で行い、全教員に周知する予定である。また、高専教育や各種フォーラム等の資料を周知する方法を検討する。(企画) 学科単位で取り組むべき項目ではないと認識。よって評価もなし。(電気) 機会があれば実施する。(材料) 学科単位ではできない。(文) 全国高専の教育方法の試み、効果的な取組事例調査および全教員への周知の検討を行う。(理)
81	Ⅰ	1	(4)	④	教材や教育方法のデータベース充実					○										○		○	○	○	○	○	○	○			平成27年度の導入がアナウンスされたラーニングマネジメントシステム(LMS)・BlackBoard講習会を受講する．(教務) 有用なファイルは、随時学科のサーバーにアップしている。サーバーのディレクトリを整理して、再構築した。(機械) 九州電力株式会社の講師から提供された送電システムに関する資料を学科サーバーに保管。(電気) 該当なし(制御) 学科サーバーに，テストとレポートの結果のスキャン結果と教材(実験書)を保存，相互に閲覧可能。(生化) 特に実施していない．(材料) 藤木助教が、Google Mapsを用いて「久留米高専　環境倫理学・技術史教育マップ」を作成している。 英語ではe-learning教材ソフトの導入によって、自学用教材の学習履歴が把握できるようになった。(文) 1年生の数学定期試験で共通問題を出題している。その結果を基礎データとして、授業改善に取り組んでいる。(理)	A(教務) A(機) B(電) D(材) C(文) B(理)	A		平成27年度の導入がアナウンスされたラーニングマネジメントシステム(LMS)・BlackBoardについて情報収集する．(教務) 今年度と同様に実施予定(機械)。 必要に応じて行う。(電気) 実施の予定なし。(材料) 変更または中止(文) これまでの取り組みを継続していく。(理)
82	Ⅰ	1	(4)	⑤	本科4年インターンシップの実施																	○	○	○	○	○					夏季休暇に30名がインターンシップに参加した。(機械) 今年度は31名が参加し、9月4，5日に報告会を開催した。(電気) 短期インターンシップを実施し、報告を開催した。(制御) 36の名参加(クラス全員の参加)(生化) 4年インターンシップ参加者11名(材料)	A(機) A(電) A(制) A(材)	A	A	今年度と同様に実施予定(機械)。 従来どおり実施の予定。(材料)
83	Ⅰ	1	(4)	⑤	専攻科インターンシップの改善・実施								○																		特例適用専攻科の申し出にともない、平成26年度入学者から開講時期を1年生に変更。期間は3週間以上の2単位、選択科目とした。(専攻科)	A(専)	A		1年生選択科目でのインターンシップ定着を図る。(専攻科)
84	Ⅰ	1	(4)	⑤	九州大学大学院総合理工学府と連携した専攻科インターンシップの実施検討								○																		1年時の夏季休暇中のみでなく1年生の3月春季休業期間中での実施についての受け入れについて協議し実施可能な体制となった。(専攻科)	A(専)	A		インターンシップ生の派遣を推進する。(夏季休業、学年末休業中を活用する。)(専攻科)
85	Ⅰ	1	(4)	⑥	高専機構の企業技術者等活用プログラム実施検討											○															専攻科1年の産業財産権特論及び産業デザイン演習において、日本弁理士会・地域企業技術者・地域公設試などの参加を得て、実践的な教育を推進した。(産学民)	B(産)	A	A	
86	Ⅰ	1	(4)	⑦	地域の高等教育機関との単位互換制度実施					◎			△			△															高等教育コンソーシアム久留米を介して単位互換協定校(久留米大学・久留米工業大・聖マリア学院大学・久留米信愛女子短期大学)との単位互換共同講義のカリキュラムを実施した。(産学民) 上記共同講義に学生が参加した。(専攻科)	A(専) A(産)	A	A	共同講義への継続参加を図る。(専攻科) 高等教育コンソーシアム久留米を介して単位互換協定校(久留米大学・久留米工業大学・聖マリア学院大学・久留米信愛女子短期大学)との単位互換共同講義を継続するとともに、市民公開講座等をカリキュラムに繰り込むなど、単位互換制度を推進する。(産学民)
87	Ⅰ	1	(4)	⑦	共同講義や単位互換科目履修など多様な学習機会の提供					○			○			○															後期に単位互換共同講義を専攻科特論一般、又は先端工学特論対象講義の一部科目として実施した。(産学民)	A(産)	A		久留米市内各大学との単位互換の継続実施。(専攻科) 前年度同様、単位互換共同講義を本校単位認定科目として実施する。(産学民)
88	Ⅰ	1	(4)	⑦	技術科学大学等の理工系大学との研修会参加等による教員交流推進					◎												△	△	△	△	△	△	△			該当なし。(電気) 該当なし(制御) 長岡技科大との連携研修会に笈木，松山が参加した(生化) 3機関連携プロジェクトに川上先生，周先生，奥山先生参画．また岩田先生が京大一産業医科大との共同研究を実施．(材料) 該当なし。(文)	A(教務) A(材)	A		機会があれば実施する。(材料)
89	Ⅰ	1	(4)	⑧	教育用電子計算機システムの効果的な活用														○			○	○	○	○	○	○	○			ウェップページを外注化するにあたり．Wordpressとの親和性を考え，phpとMySQLを最新のバージョンにした．学術認証フェデレーションの運用が始まり，各種サービスを受けることができるようになった．(総合) CAD演習、機械要素設計実験などCAD/CAEを用いる授業をIT演習室で行っており、教師用の授業支援システムなども有効に利用している。(機械) LL教室のシステムを利用して、朝の1時限前に英語教育を実施している。受講者は10名前後である。(電気) プログラミング言語授業、制御実験、情報通信実験などでは電算システムを使用していた。(制御) 生物応用化学科棟内に情報科対応室を有し，15台のPCを維持管理している。その中に，gPROMSやDNA配列操作ソフトBioEditなど生化特有のアプリケーションをインストールしている。(生化) 情報処理の授業で実施中(材料) 一部の英語の授業ではデジタル教材が付属したテキストを使用し、学内のPCを使って自学することを促している。また、CALLシステムの導入に伴い、学内のすべてのPCから利用できるe-learning 教材を購入し、活用を進めている。(文) 成績及び出欠の集計・提出に電算機計算機システムを利用している。(理科)	A(機) A(電) A(制) A(材) B(文) B(理) A(情)	A	A	安定運用に継続的に努める．(総合) 英語教育については継続するとともに、受講者の拡大を図りたい。(電気) 来年度も引き続き実施する。(制御) 情報処理の授業で実施する。(材料) 継続(文) これまでの取り組みを継続していく。(理)
90	Ⅰ	1	(4)	⑧	コンピュータ支援語学学習(CALL)システムの導入																						○				マルチメディア教室(LL教室)では、視聴覚教材をデジタル化して使用できる設備が整い、授業環境が大幅に改善した。また、学内のすべてのPCから利用できるe-learning 教材を購入し、授業外でも学生がコンピュータを使って英語学習を進めることができるようになった。(文)	A(文)	A		導入は完了(文)
91	Ⅰ	1	(4)	⑨	一般科と専門学科の連携強化																○	○	○	○	○	○	○	○			第1回FD会議において、「本校学生の学力の現状と課題(対策)」をテーマとして、一般科目(数学、物理、英語)教員による講演および各種テスト結果に基づいた現状報告を行った上で総合討論し、専門科目教員との間で情報の共有を図った。(授業) ・機械工学科教員が担当している専門科目の応用物理と一般科目(理科系)の教員が担当している物理の整合性をとるために、打ち合わせを行った。(機械) 今年度は英単語学習について、学科担当者が一般文科と話し合いを持ち、教材を決定した。応用物理の学習内について、一般理科と学科長がその確認を行った。(電気) 工業倫理(本科3年)一般文科と共同して実施。また、生物応用化学科学科会議に生化1，2年の担任に出席してもらい，クラスの様子を報告してもらっている。本年度から，応用化学実験の一部を一般理科化学系教員も参加(生化) 前期及び後期成績発表後，さらに進級査定会議前などに学級担任懇談会を実施．(材料) 倫理担当教員が生物応用化学科教員と応用倫理の授業を共同開講している。英語科では単語練習帳の統一について、専門学科と連絡を取っている。(文) 専門学科の先生方と話す機会を作り、、学生の状況や学習内容について情報を交換している。(理)	B(機) A(電) B(授) A(材) B(文) B(理)	A	A	次年度も同様に検討する予定である。(授業) 次年度も今年度と同様に実施予定(機械)。 引き続き、英語、物理、数学について連携強化を図る。(電気) 従来どおり，前期及び後期成績発表後，さらに進級査定会議前などに学級担任懇談会を実施の予定．(材料) 継続(文) 今後も情報交換に努め、協力して学生教育・指導を進めていく。例えば、専門学科の先生方と、学生の状況や学習内容について緊密に情報を交換する。(理) 一般理科化学系(宮本、黒飛)へ生物応用化学科の卒業研究生を受け入れる。(生化・理:宮本、黒飛)

92	Ⅰ	1	(4)	⑨	学科内科目間連携																		○	○	○	○	○	○	○			機械工学の主要分野である材料力学、流体力学、熱工学、機械力学に関して、CAD/CAE/CAMおよび実験により授業を行う機械要素設計実験において、各分野の教員が連携して授業を行っている。(機械) 電磁気学の本科と専攻科の科目間での学習内容の確認と、担当者が変更になる制御工学Ⅱの制御工学Ⅰ担当者との学習内容の確認を行った。(電気) 卒業研究や専攻科研究論文では連携を図っていた。(制御) 授業改善会議を4月、10月に実施し，学年毎の進度を共有するとともに，連携の問題点を話し合った。(生化) 教室会議などにおいて随時実施．教員の体調不良などで科目間の調整を行った．(材料) 社会科では、学生の文章力を伸ばすために複数科目で試験を記述式にするなど、教員間で協議・連携を行っている。また、4、5年生対象の一般選択科目は、1～3年生で学んだ基礎科目の内容と継続性・関連性を持たせるように配慮している。(文) 数学と物理は内容に関連性が高いため、学生の状況や授業の進み具合等について情報交換を行っている。(理)	A(機) B(電) A(制) A(材) B(文) B(理)	A		次年度も今年度と同様に実施予定(機械)。 授業改善会議などにおいて、他の科目に於いても、関連性のあるものについて学習内容の確認を行う。(電気) 来年度も引き続き実施する。(制御) 教室会議などにおいて随時実施．教員の体調不良などで科目間の調整を行う予定．(材料) 継続(文) 数学と物理は内容に関連性が高いため、これまで通り学生の状況や授業の進み具合等について情報交換を行い、協力して学生教育・指導を進めていく。(理)
93	Ⅰ	1	(4)	⑨	他学科との連携																		○	○	○	○	○	○	○			研究において、各学科が管理する研究設備を相互に利用している。また各学科の教員の専門知識について、相互に質問するなどしている。(機械) 機械工学科、材料工学科と授業について相互に担当し合っている。また、卒業研究、人材育成講座において生物応用化学科との連携を一部の教員が行っている。(電気) 創造工学実験などで学生の指導や評価において他学科の教員との連携を実施している(制御) 機械工学科に化学製図，機械工学概論をお願いし，生物応用化学科が，化学工学の講義を担当している。定常以外の連携については，2014年度実績無し(生化) 図学，材料設計製図を機械工学科，電気電子工学概論を電子電気工学科にお願いし，機械材料学(機械工学科)，材料学(制御情報工学科)，電子電気材料学(電気電子工学科)の授業を担当している．(材料) 上記「一般科と専門学科の連携強化」に同じ。(文) 来年度から、一般化学で生物応用化学科の卒業研究生を受け入れる準備をしている。(理)	B(機) A(電) A(制) A(材) B(文) B(理)	A		次年度も今年度と同様に実施予定(機械)。 引き続き実施する。(電気) 来年度も引き続き実施する。(制御) 図学，材料設計製図を機械工学科，電気電子工学概論を電子電気工学科にお願いし，機械材料学(機械工学科)，材料学(制御情報工学科)，電子電気材料学(電気電子工学科)の授業を担当する予定．(材料) 継続(文) 次年度から、一般化学で生物応用化学の卒業研究生2名を受け入れる予定である。(理) 次年度は、項目名を「専門学科間の連携」に変更する。(企画)
94	Ⅰ	1	(4)	⑩	各種評価に基づく授業内容・教材・教授技術等の継続的改善					○		○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			学生による授業評価アンケートおよび教員による自己評価アンケート結果を集計・分析し、報告書としてウェブ上で公開し、全教員にフィードバックした。各教員は成績評価とこのアンケート結果に基づいて、担当科目のシラバス作成、教材、進度、教授技術の改善に役立てている。以上のことを継続的に行うことによって、授業内容、教材、教授技術などが改善される。(授業) 授業評価アンケート等の結果を受けて、授業内容や教材は適宜改善している。(機械) 例年通り、授業アンケートによる改善を教員単位で行っている。(電気) 毎年学生の授業アンケートの分析による授業内容、教材、授業方法などの改善を実施していた。(制御) 授業改善会議を4月に実施し，学年毎の進度を共有するとともに，連携の問題点を話し合った。その結果をもとに，次年度の教材の改善に繋げている。(生化) 学科会議で継続的に実施(材料) 学生による授業評価アンケートは、、随時参考にして授業の改善を行っている。また、独自に学生から授業に対する意見を聞いて参考にしている教員もある。(文) 学習到達度試験やアンケート結果などを参考に、学生の状況を見ながら各教員で教材・授業に工夫している。(理)	A(機) A(電) B(授) B(制) A(材) B(文) B(理)	A	A	専攻科修了時アンケートの分析を行う。(専攻科) JABEE継続審査受審による教育改善努力の評価を行う。(JABEE委員会) 次年度も同様に実施する予定である。(授業) 引き続き実施する。(電気) 来年度も引き続き実施する。(制御) 学科会議で継続的に実施の予定(材料) 継続(文) 学習到達度試験やアンケート結果などを参考に、学生の状況を見ながら各教員で教材・授業に工夫する。数学では1年生の定期考査の共通問題作成に反映させる。(理)
95	Ⅰ	1	(4)	⑩	研究活動に基づく教育の質の改善																		○	○	○	○	○	○	○			日本機械学会年次大会、日本機械学会歯車分科会、日本設計工学会講演会などに参加し、伝動装置における最新の情報を入手し、機構学、機械設計法、製図、生産加工学、機械工学実験などの授業に取り入れ、教育の質の改善を図った。(機械) 学会発表等により、研究内容に加え、プレゼンテーション能力向上を図っている。(電気) 卒業研究や専攻科研究論文では学生の授業内容に対する理解の深化を図ることで、教育の質の改善を努めていた。(制御) 学会発表，論文発表などを通して継続的に改善中(生化) 学会発表，論文発表などを通して継続的に実施中(材料) 研究結果の発表や、教育方法に関する論文の発表を推進している。(文) 教育法の研究や教材研究を行い、授業に活かしている。(理科)	A(機) A(電) A(制) A(材) B(文) B(理)	A		次年度も今年度と同様に実施予定(機械)。 学会発表等の外部における学生の発表を学科として奨励する。(電気) 学会発表，論文発表などを通して継続的に実施する予定(材料) 継続(文) これまでの取り組みを継続していく。(理)
96	Ⅰ	1	(4)	⑩	FD会議に基づく教育の質向上や授業の改善																	○										第1回FD会議において、「本校学生の学力の現状と課題(対策)」をテーマとして総合討論し、本校における一般科目教員と専門科目教員の間で情報の共有を図った。また、保護者に対する本科の公開授業参観、教員のFDを目的とした相互授業参観を実施し、教育の質の向上を図った。今後は、第2~3回FD会議において、全国における教育・学生指導の事例や方法等が報告され、各教員はFD会議等の結果に基づいて、自身の教育の質の向上や授業の改善に役立てることとなる。(授業)	B(授)	B		FD会議開催による授業改善実施に関するアンケートを次年度に実施する予定である。(授業)
97	Ⅰ	1	(4)	⑩	教育支援者等の研修等への参加およびSD会議の開催														○													(国大協)スキルアップ研修、(九州沖縄地区高専)技術職員研修に3マ名参加。 3月にSD会議を実施。(教務)	A(教務)	A		これまでの取り組みを継続していく。(教務)
98	Ⅰ	1	(4)	⑩	一般文科系科目における基礎学力向上を目指した授業の充実																							○				文科系科目では、基礎学力の向上を第一目的として、全ての授業にこの意図を反映させ、取り組んでいる。(文)	B(文)	A		継続(文)
99	Ⅰ	1	(4)	⑩	コミュニケーション能力を高める取り組みの推進																		○	○	○	○	○	○	○			機械要素設計実験において、1クラスを5グループに分け、グループ内での討議内容を提出させ、成績評価の対象としている。(機械) 1，2年生における実践演習科目により、専門的な表現等の学習を進めている。特に、後期の実践演習Ⅱでは、ネイティブスピーカーによる英会話を行い、英会話に対する恐怖心の払拭と英語活用の実践を図った。(電気) 諸実験、創造工学実験、卒業研究および専攻科研究論文では、学生間コミュニケーション能力を高めることを推進していた。(制御) 情報化学(2，3年)の授業でパワーポイントを使った発表をさせている(生化) 創造工学実験，卒業研究インターンシップ(4年，専攻科)など主だった実験科目については，パワーポイントをしようした発表会を実施．(材料) 作文や論述課題によって表現力を高める工夫をすると同時に、相手の状況や文化的背景も含めて他者を理解することを授業内容に組み入れている。英語では、会話能力の向上も目標として取り組んでいる。(文) 授業で指名したり、課題を受け取るときに諳問するなど様々な手段を講じ、学生に自分の考えを言葉にする機会を作っている。(理)	A(機) A(電) B(制) A(材) B(文) B(理)	A		次年度も今年度と同様に実施予定(機械)。 引き続き、実践演習科目の充実を図るとともに、他の科目での展開も検討する。(電気) 従来どおり，創造工学実験，卒業研究インターンシップ(4年，専攻科)など主だった実験科目については，パワーポイントをしようした発表会を実施する予定．(材料) 継続(文) これまでの取り組みを継続していく。(理)
100	Ⅰ	1	(4)	⑩	英語力・国際コミュニケーション能力を高める取り組みの推進																		○	○	○	○	○	○	○			後期に、5年生選択科目「テクニカルコミュニケーション」の授業を実施した。(機械) 英単語学習、中学英語の復習、英会話教育を推進している。朝のLL教室での英語学習に加え、後期の実践演習Ⅱでは、ネイティブスピーカーによる英会話を行い、英会話に対する恐怖心の払拭と英語活用の実践を図った。また、4年生のマイコン応用では、例年通りに大学の外国人研究者による英語での講義を実施した。(電気) 外国(タイ)の学生の本学科の短期滞在期間を利用して、学生と外国の学生との英語力やコミュニケーション能力を養うことを図っていた(制御) タイからの留学生などを積極的に受け入れた．(材料) LL教室やe-learning 教材などを活用して、英語学習の推進を図っている。また、世界の文化や思想・情勢などを理解することによる国際感覚の醸成も行っている。(文)	A(機) A(電) A(制) A(材) B(文)	A		次年度も今年度と同様に実施予定(機械)。 引き続き、精力的に実施する。(電気) タイからの研究生などを積極的に受け入れるよてい．(材料) 継続(文)
101	Ⅰ	1	(4)	⑩	担任・クラブ顧問の手引き作成検討					○	○																					担任業務、クラブ顧問の業務に関しては多岐・多様であるため、マニュアル化は難しいとのことだった。また、マニュアル化することにより、マニュアル化されたない業務はどうなるのかなどの問題があるため、今年度の作成は断念した。書き方、内容等を含めて、引き続き検討することにしたい。(学生主事)	C(教務) C(学)	A		必要であるか否か、必要であるなら、何が必要であるか検討する。(教務)(学生)
102	Ⅰ	1	(4)	⑪	4年生工場見学旅行および低学年工場見学の実施					○													○	○	○	○	○					7/22に3年生の工場見学(本田技研)を、11/28に5年生の工場見学(本田技研および地熱発電所)を実施した。また4年生の工場見学を9/23～9/27に実施した。(機械) 4年生の工場見学旅行は実施予定。9月30日に1年生の工場見学を実施(スマートハウス)した。後期には、3年生が九州電力の工場見学を行った(発電所、中央給電司令所)。(電気) 実施した。(制御) 大日精化，味の素KK，沢井製薬，JNC石油化学の工場見学を実施中。いずれも，本校からの先輩社員との懇談を設定。1年創造化学実験で，やまやコミュニケーションズ，福岡地区水道企業団 施設部 海水淡水化センターの見学，2年無機分析化学実験で旭製作所，3年有機化学実験で，九州大学大学院総合理工学府を見学した。(生化) 1年生に対して工場見学を実施。年度末までにもう1回実施。4年生は工場見学旅行を実施。12月に1年生向けに工場見学を実施．(材料)	A(機) A(電) A(制) A(材)	A	A	4年生工場見学旅行について，費用や期間について検討する．(教務) 次年度も今年度と同様に実施予定(機械)。 引き続き実施する。(電気) 1年生に対して前期,後期それぞれで工場見学を実施する予定。4年生は工場見学旅行を実施する。(材料)
103	Ⅰ	1	(4)	⑪	企業訪問、工場見学などの実施状況把握					◎													△	△	△	△	△					工場見学については教務係で把握している．(教務) ?(電気) 実施していない。(制御) 学生が就職した企業を数社訪問。(材料)	A(材)	A		工場見学の実施状況を校内に知らせるようにしたい．(教務)
			(5)学生支援・生活支援																																			

104	Ⅰ	1	(5)	①	学習を進める上でのガイダンスの実施					○													○	○	○	○	○				新入生に対して久留米高専の学生としての心構えを学ぶこと，学友・教員との親交を深めることを目的とする1泊2日の合宿研修（4月25日，26日）を行った際に，校長が「目標を定めて努力する」，教務主事と学生主事が「高専での学習と生活」という題目の講話を行った。（教務） 本科1年生には，入学式の日に行われる学科紹介の際に、必要な自宅学習の時間など具体的なことを伝えている。また専攻科1年生にも、入学後の説明会で、専攻科での学習のあり方について伝えている。（機械） 低学年の実践演習において、学習方法等を必要に応じて教授している。（電気） 授業においてシラバスの解説を実施していた。（制御） 4年からのコース選択の説明会を実施（生化） 新1年生，新4年生，および専攻科入学生に対しガイダンスを実施した．（材料）	A(教務) A(機) A(電) A(制) A(材)	A	A	5月に実施予定の新入生の合宿研修で，教務主事と学生主事が「高専での学習と生活」という題目の講話を行う．（教務） 次年度も今年度と同様に実施予定（機械）。 引き続き実施する。（電気） 新1年生，新4年生，および専攻科入学生に対しガイダンスを実施する予定．（材料）
105	Ⅰ	1	(5)	①	カウンセラー及び精神神経科医師による学生相談の実施												○														精神神経科医師及びカウンセラーなどの専門家と学生相談室員により、継続的な面接と支援を実施する。今年度よりカウンセラーの人員を増員し、より相談しやすい体制を設けている。学生、あるいは担任より相談室員等に相談のあった事例に対して、必要に応じてカウンセラーのアドバイスを受けながら、個別の対応を行う。（相談室）	A(相)	A		来年度も同様に、左記の対応を継続的に行う予定である。（相談室）
106	外	1	(5)	①	人権意識の確立やDV防止教育体制の検討						○						○														人権意識の確立の観点から「久留米工業高等専門学校いじめ防止基本方針」、「久留米工業高等専門学校いじめ防止対策規則」を策定し、次年度より施行する。（学生主事） 特記事項なし。（相談室）	A(学)	A		施行された基本方針等が不備な点がないか、確認する。（学生） 施行された基本方針を基に、学内で連携を取りながら実施していく。（相談室）
107	Ⅰ	1	(5)	①	発達障害等の問題を抱える学生を支援するための教職員協力体制構築												○														発達障害等の問題を抱える学生に関しては、科目担当教員、クラス担任、学生課員などの教職員の協力体制を、引き続き必要に応じて構築していきたい。（相談室）	A(相)	A		来年度も同様に、左記の対応を継続的に行う予定である。（相談室）
108	Ⅰ	1	(5)	①	学生のメンタルヘルスについての教職員対象講習会実施												○														FD会議において例年実施している。今年度も後期に本校カウンセラーである多田先生を講師として実施する予定であり、現在講演内容について検討中である。（相談室）	A(相)	A		FD会議において例年実施している。来年度も実施予定である。（相談室）
109	Ⅰ	1	(5)	①	学生相談室アドバイザーによる支援の促進												○														学生支援アドバイザー（再雇用教員）に関しては、相談室長を中心として協力体制を形成している。 また、発達障害学生の学習支援対応についても依頼予定である。（相談室）	A(相)	A		来年度も必要に応じて依頼したいと考えている。（相談室）
110	Ⅰ	1	(5)	①	学生支援アドバイザー（再雇用教員）による支援の促進					○																					4名を選任し，校内に掲示するとともに担任へ精度と担当教員の紹介を依頼した．．（教務）	A(教務)	A		引き続き選任して実施する．（教務）
111	Ⅰ	1	(5)	①	学生向け各種講習会(ビジネスマナー,携帯電話利用,暴力団排除等)の実施						○																				学生向け講習会として、インターンシップ参加学生を対象とした「ビジネスマナー講習会」を6月18日に、携帯電話によるトラブル防止のために「ケータイ安全教室」を4月30日（3年生対象）、6月10日（1年生対象）、6月11日（2年生対象）、暴力団排除教育を5月28日（1年生対象）に実施した。（学生主事）	A(学)	A		ケータイ安全教室・暴力団排除教育については1年生に実施予定。就職支援セミナーは5年生にビジネスマナー講習会は4年生に対象に計画中。（学生）
112	Ⅰ	1	(5)	②	学生寄宿舎環境改善のための施設・設備の整備計画策定・予算要求					△		◎																			寮生活環境整備経費（500万円）により食堂の冷凍・冷蔵ショーケースの更新，厨房設備の改善，トイレのドア設置，学習室へのエアコン設置等を行った。また寮費から居室・補食室の消毒等，食器の更新補充を実施した。 3月閉寮期間中に食堂出入り口扉の更新と居室内装の部分的補修を実施の予定。（寮務）	B(寮)	A	A	寮生活環境整備経費及び寮費を利用した計画的な整備計画を策定し実施する。（寮）
113	Ⅰ	1	(5)	③	入学料・授業料免除の情報提供と実施						○																				これらの情報提供についてはホームルームや掲示により行っている。本年度は入学料免除については0名（応募なし）、、授業料免除については、前期全額免除23名、半額免除3名、後期全額免除25名、半額免除3名が，厚生補導委員会で審議のうえ採択となった。（学生主事）	A(学)	A	A	今年度同様実施する。（学生）
114	Ⅰ	1	(5)	③	奨学生募集説明会の開催						○																				日本学生支援機構奨学生の募集説明会が4月17日（木曜日）16：40からD3教室において実施された。（学生主事）	A(学)	A		今年度同様実施する。（学生）
115	Ⅰ	1	(5)	③	各種奨学金に関する情報の集約および情報提供						○																				情報の集約は学生生活支援係で行い、ここから掲示による通知、または担任会を通してホームルームでの情報の提供を行っている。（学生主事）	A(学)	A		今年度同様実施する。（学生）
116	Ⅰ	1	(5)	④	就職・進学等の進路指導の実施													○					○	○	○	○	○				就職主任（就職希望学生）及び担任（進学希望学生）を中心に、学科教員全体で進路に関しての具体的な指導（個人面談や各種書類作成指導を含む）を丁寧かつ親身に行っている。またその各学科における取り組み状況は適宜及び委員会席上で学科間で共有し、それぞれの学科の活動に反映させている。（就職） 就職は、学科の就職担当教員を中心として、適宜卒業研究指導教員などが加わり、個々の学生に対して指導している。また進学については、5年担任教員を中心に指導している。また12月5日 に卒業生による実体験にもとづく講演会を3年生以上を対象に実施した。（機械） 担任、就職主任が実施している。（電気） 就職主任、担任が実施した。（制御） 就職支援は，就職主任が実施。進学は，5年担任が実施し、就職100％の決定。企業のOBを迎えてキャリアーセミナーを実施（2年:5名，3年:12名，4年:17名，専攻科1年:3名参加）（生化） 担任，就職担当教員，研究室教員が適宜実施．特に就職については，4年生に対し就職及び進学が決定した5年生に経験談を話させるとともに，就職担主任がこれまでの実績，準備ニチアス心構えなど，丁寧に説明会を実施．（材料）	A(就) A(機) A(電) A(制) A(材)	A	A	次年度も今年度と同様、高専の特色である少人数教育を活かして、学生一人一人に対し、各学科では就職主任を中心に個人面談や各種書類作成指導を含む、きめ細やかな指導を行う。時に次年度から就職時期が変更になるので、その対応が企業によって様々であることから、より一層の細やかな指導を行うと同時に就職委員会等を用いて各学科間及び学校全体の情報共有や意見交換等を行い、より良い進路指導を心がける。（就職） 次年度も今年度同様に実施予定。（機械） 引き続き実施する。（電気） 5年生に経験談を話させるとともに，就職担主任がこれまでの実績，準備に必要な心構えなどの説明会を実施する予定．（材料）
117	Ⅰ	1	(5)	④	就職・進学状況の把握					○								○					○	○	○	○	○				各学科に報告を依頼し，学科長委員会ごとに最新の状況を報告している．（教務） 就職に関しては、各学科内においては、学科会議等で適宜、学校全体としては就職委員会の席上、各学科、各専攻の就職状況を周知、把握し、対策等を丁寧に協議および情報共有している。進学についても、各学科内で学科会議において状況を把握し、各学科の状況を学科長委員会等で周知および把握し、問題点や課題を協議している。特に次年度以降の就職活動の変更に対する対応については就職委員会に於いてその対応を丁寧に、かつ様々な視点から協議／議論を重ねた。（就職） 教室会議等の報告で、学科の全教員が細かく把握している。（機械） 5年担任、就職主任が実施し、学科会議で報告している。（電気） 就職や進学について、就職担任および学級担任が状況を把握し、その状況は必ず学科教室会議で報告し、学科全員に状況を共有していた。（制御） 就職，進学の合格は，学科会議で報告され，全教員が把握している。（生化） 毎回の教室会議，またはメールにて情報は学科内で共有（材料）	A(教務) A(就) A(機) A(電) A(制) A(材)	A		就職委員会と連絡を密にして，適宜全体的な状況を学科長委員会に報告する．（教務） 前記のように、従来と同様、各学科就職担当者を中心に、学科内で情報の収集、共有を行い、それをふまえて就職委員会の席上、各学科、各専攻の就職状況を周知、把握し、対策等を丁寧に協議および情報共有している。特に次年度は就職活動時期の変更があるので、それに関連する事項について丁寧な情報収集や分析、意見交換を行う予定である。また従来と同様、求人等で面談した企業担当者からは高専や大学の採用状況等の情報を収集を行う。他高専や他校と他校等教育機関の担当者とも可能な限り機会をみつけて、情報収集や意見交換等も行いたい。必要ならば他高専に赴いての面談も計画している。（就職） 次年度も今年度同様に実施予定。（機械） 引き続き実施する。（電気） 従来どおり，毎回の教室会議，またはメールにて情報は学科内で共有する。（材料）
118	Ⅰ	1	(5)	④	進路選択支援に関する他高専の取り組み事例調査					○								○													九州沖縄地区高専フォーラムに参加し，有明高専で実施されている卒業生による高専生へのキャリア教育についての取り組み報告を聞いた．（教務） （就職に関して）組織的な調査は行っていないが様々な合同説明会等で同席した他高専、他大学担当者からお互いの状況や傾向等の情報や意見の交換をおこない、また、求人等で面談した企業担当者からは高専や大学の採用状況等の情報を収集し本校学生の指導に役立てている。次年度から就職状況が大きく変わるので積極的に他高専の（特に九州各高専に対して）情報収集するべく計画している。近隣の高専担当者と意見交換を行った。12／11開催の久留米公共職業安定所における「大学等就職支援担当者意見交換会」に参加し、近隣の高等教育機関の担当者や同所の職員と情報共有や意見交換を行った。（就職）	A(教務) B(就)	A		次年度は就職活動時期の変更があるので、他高専や他校と他校等教育機関の担当者とも可能な限り機会をみつけて、情報収集や意見交換等も行いたい。必要ならば他高専に赴いての面談も計画している。（就職）
119	Ⅰ	1	(5)	④	キャリア教育の一環としての就職活動準備セミナー等の実施													○													学生の就職に関する意識を高めることを目指し、7/2 福岡県仕事サポートセンターの協力の下、講師を派遣してもらい、主として本科4年生及び専攻科1年生に対する「就職準備セミナー」を開催した。また5／26には、就職未定学生対象の九州地区合同企業説明会を本校体育館で開催した。 6/18にはビジネスマナー講習会を開催し盛況であった。3／21に本校を会場に九州地区高専対象の合同就職説明会（約130社参加／日本各地開催する同説明会では最大規模）を本校で開催予定。またキャリア教育の一環としてOBによるその業界の特色や働くことの意義を考えるキャリア教育に資するOB講演会を各学科単位あるいは学校全体で開催し多くの学生が参加した。（就職）	A(就)	A		次年度も今年度と同様、外部各団体／機関とも連携して、セミナーや講演会を実施予定である。（就職）
120	Ⅰ	1	(5)	④	就職活動採用時期変更への対応													○													7/2 開催の上記「就職準備セミナー」において本科4年生及び専攻科1年生に対し、就職採用時期変更に対する対策や心構えを中心に講話を行った。各学科の就職主任からも対象学生に対して適宜説明を行っている。企業担当者とも面談を行い、説明をするとともに情報収集や意見交換を行っている。後期は各高専の担当者とも意見交換や情報収集を行った。多くの企業担当者と面談し、各企業の動向や意見を調査した。12／11開催の久留米公共職業安定所における「大学等就職支援担当者意見交換会」に参加し、近隣の高等教育機関の担当者や同所の職員と情報共有や意見交換を行った。（就職）	B(就)	A		各企業の採用時期変更に対する対応は様々なので、就職希望の学生に対しその状況等について丁寧な説明や打ち合わせを各学科就職主任を中心に行い、就職委員会でも情報の整理や意見交換を行い、学生の就職活動についての丁寧な支援を行う予定である。次年度は就職活動時期の変更があるので、他高専や他校と他校等教育機関の担当者とも可能な限り機会をみつけて、情報収集や意見交換等も行う。必要ならば他高専に赴いての面談も計画している。（就職）
121	Ⅰ	1	(5)	⑤	学生の自主的学習を進める上での相談・助言の体制整備					○													○	○	○	○	○	○	○		教員は学生の質問に対して真摯に対応している．（教務） 学校として、日常的な事柄であり、学生相談室等もあるので、とくに体制整備は必要ないと考えている。（機械） 学生が相談に来たときはいつでも対応している。また、自習室も20時まで引き続き解放している。 （電気） 各教員において実施していた。（制御） 学科のオフィスアワーを適宜実施し学生の相談や助言体制を作っている。（生化） 特に整備していないが，低学年であれば学級担任，高学年であれば研究室の教員が助言を与えている．（材料） 授業時間や校務の都合で特定の時間帯にオフィスアワーを設定することは難しい状況であるが、学生に対してはいつでも気軽に質問に来るように呼びかけ、相談・質問等に応じている。（文） 授業のない時間に、学生が質問をしに来て、随時応対をしている。自主学習を希望する学生のためにテキストや学習法の相談に乗っている。意欲的な学生に、科学コンテストの参加を促し、指導している．（理）	A(教務) B(機) A(電) B(制) A(材) B(文) B(理)	A	A	引き続き実施する。（電気） 特に整備していないが，低学年であれば学級担任，高学年であれば研究室の教員が助言を与える．（材料） 継続（文） これまでの取り組みを継続していく。（理）

122	Ⅰ	1	(5)	⑤	オフィスアワーの設定と周知推進																			○	○	○	○	○	○	○			学生からの相談には、学科の教員は可能な限り適宜応じている。また一人当たりの業務量から考えると、オフィスアワーの設定は困難である。(機械) 設定する予定はない。(電気) 実施している(制御) オフィスアワーは設定していないが，教員が在室している限りいつでも実施している。(生化) 特に設定していないが，相談に来れば適宜対応している．(材料) 業務の都合上特定のオフィスアワーを設けることは難しいが、基本的に放課後や休憩時間は、いつでも学生の質問や相談に応じる体制をとっている。(文) 各教員で、教員室の前に掲示したり、連絡先(教員室の電話番号やメールアドレスなど)を教えるなどの方法で、学生に自分の予定・都合が伝わるようにしている。(理)	A(機) C(制) A(材) C(文) B(理)	A		オフィスアワーの設定予定はないので、評価もしない。(電気) 特に設定していないが，相談に来れば適宜対応する．(材料) 変更。オフィスアワーが設けられる時間割になっていない。(文) これまでの取り組みを継続していく。(理)
123	Ⅰ	1	(5)	⑤	学生の主体的学習を増やすための方策検討					○			○											○	○	○	○	○	○	○			5年生の専門必修科目、機械要素設計実験において、個々の学生が設計したハンドルからグループ代表のハンドルを選ばせ、そのハンドルをグループのハンドルとして、製作し強度試験を行い、所定の強度にならなかった場合は、原因の究明、改善点の抽出をグループ討議により、行わせている。これらの過程で学生は、座学や演習で学んだ知識を用いて議論する。この過程を通して、学生に主体的学習を促せている。(機械) 授業において課題を課し、レポートで報告させ、学習のきっかけを作ろうとしている科目が複数ある。(電気) 各教員において学生に自主的に学習するように促せている。(制御) 生化1年生を対象として，モル道場(化学Ⅰの自学教室で，適宜学生からの質問を受け付ける)を実施(生化) 工業英語で毎回レポート提出を義務化。(材料) 英語では、自学用教材を導入し、授業外での学習を促している。「技術哲学」「工業倫理」の授業では、地域の産業遺産や環境施策を教材として見学ツアーを実施するなど、主体的な学習意欲の向上を図っている。(文) 各教員が必要に応じて自学自習教材(演習プリントなど)を作成し，配布している．(理)	A(機) A(電) B(制) B(材) B(文) B(理)	A		専攻科生を主対象にした学習教材などの提供について検討し必要があれば予算要求する。(専攻科) 次年度も今年度同様に実施予定。(機械) 授業改善会議等で、各教員の実施内容を確認する。(電気) 努めてレポート，宿題などを出すようにする。(材料) 継続(文) これまでの取り組みを継続していく。(理)
124	Ⅰ	1	(5)	⑤	外国留学に対する支援					○																			○				外国の学校の学年暦と日本の学校の学年暦の違いから，学期途中で留学した場合，試験を受けてないためその学期を再び最初から行う必要があり，留学した年度を含めて2年卒業が遅れることになる．これについて本校で，留学の場合に限って帰国後の履修に際して留学前の出席と中間試験を有効とする措置により，留学した1年だけの遅れで済むようにしている．(教務) 外国留学を希望する、もしくは興味を示す学生に対しては、その学生の適性等を見極めながら助言・支援を行っている。(文)	C(文)	A		支援の中身、留学を推奨するのかなど、具体的な検討が必要。変更(文)
125	Ⅰ	1	(5)	⑤	外国人留学生に対する学習・生活面の支援					○		○												○	○	○	○	○					年間60時間，留学生のみを対象とした日本語の授業を行っている．(教務) 留学生には該当クラスの寮生から日本人チューターを選び，学習や生活面の相談・支援にあたっている．加えて，寮務主事室と寮生活支援係が適宜支援している．寮生会による寮祭や異文化交流会も開催し，留学生と寮生間の親睦を深めた。女子寮では寮母による女子留学生との交流も図られている。後期には冬の寮祭を実施し，ボーリングやBBQによる寮生相互の交流を図った。(寮務) 寮生から留学生の学習を支援する学生を選出しており、担任を中心に各教員が、学習・生活の両面から支援している。(機械) 該当なし。(電気) 該当なし(制御) 本科5年ナンサーの相談員と担任で支援(生化) 担任、チューターを主体に支援を行っている(材料)	A(教務) A(寮) B(機) A(材)	A		留学生を対象とした日本語の授業を引き続き行う．(教務) 次年度入寮予定の4名の留学生を加えて，従来通りの学習・生活面での支援を行う。また国際交流事業で来校する短期留学生に対しては，宿所の提供を中心にサポートを継続する。(寮) 27年度に2名の留学生が入っている予定であるため、3年担任を始めとして、学科として支援を行う。(電気) 担任、チューターを主体に支援を行う。(材料)
126	Ⅰ	1	(5)	⑤	マイクロソフト包括ライセンスの利用											○																	年度当初の担任会で案内を行った．また。Officeに対する学生の個人利用のオプションが11月までで利用中止となるため，9月30日の担任会で連絡した．9月上旬時点でOfficeの申込は38件，WindowsのUpgradeの申込は4件であった．学認による学生個人，教職員のDreamSparkの利用も案内済みである．(総合)	A(情)	A		次年度からOffice365に移行し，クラウド環境であるAzureの利用もできるようになるため，できるだけ有効に活用してもらうよう，学内に周知したい．(総合)
127	Ⅰ	1	(5)	⑥	学校の枠を超えた学生の交流活動の検討					○			○				○																高等教育コンソーシアム久留米の学生主体の活動として、久留米市の広報誌(広報くるめ)に「くるめ学生通信」の記事を各校で連載した。(産学民) 4高専連携フォーラムに参加し各専攻科代表9名の研究内容の相互発表等及び英語による特別講義を受講した。(専攻科)	A(専) A(産)	A	A	タイの大学からの学生を短期来校する場合に専攻科学生との情報交換の場を設けることができないか検討する(専攻科) 高等教育コンソーシアム久留米の学生主体の交流活動として、広報誌等への各校記事連載を継続する。(産学民)
128	Ⅰ	1	(5)	⑥	課外活動における外部コーチの活用						○																						現在文化局・体育局、あわせて36団体が活動しているが、そのうち14団体がコーチを導入している。(学生主事)	A(学)	A		今年度同様に実施する。(学生)
129	Ⅰ	1	(5)	⑥	課外活動に対する支援						○																						必要である団体にはコーチを導入し支援している。予算に関しては後援会と協力しサポートしている。設備に関しては厚生補導系により予算の許す範囲で支援している。(学生主事)	A(学)	A		今年度同様に実施する。(学生)
130	Ⅰ	1	(5)	⑥	専攻科生の学生会行事参加検討(第1回自己評価検討委員会指摘事項)						○		○																				高校生年代を含む高専では、専攻科生との年齢の違い、また学生数の違いから、集団行動やコミュニケーション能力を学ばせる本科生主体の学生会行事に、専攻科生を参加させると、自主・自立を妨げる危険性がある。指導的立場で参加できるような企画について今後も検討したい。(学生主事)	C(学)	A		平成26年度の検討結果に従い対応する。(専攻科) 専攻科主事と引き続き検討する。(学生)
131	Ⅰ	1	(5)	⑥	学生大会等を通じた学生の要望把握						○																						およそ月に一度のペースで学生会と学生主事室の合同会議を開催し、学生大会等からの学生の意見を実現するべく活動している。今年度はウェーブホールの土曜日の開放を実現した。(学生主事)	A(学)	A		学生会との打ち合わせが十分機能していると考えられ、今年度同様に実施する。(学生)
132	Ⅰ	1	(5)	⑥	学生支援に係る情報提供体制の充実						○																						掲示・担任会を通してホームルームによる情報の提供を行っている。(学生主事)	A(学)	A		今年度同様に実施する。(学生)
133	認外	1	(5)	⑥	学生対象の各種アンケート調査実施、分析および対策検討						○	○						○															学生を対象としたアンケート調査を5~6月に実施し、回答結果を夏休み前に担任に返却した。学校生活適応に問題を抱える学生や、コメント欄に気になる内容を記載した学生に対してはアンケート用紙に付箋を付記し、担任に伝えた。今年度は、機構より通達のあった自殺予防調査も兼ね、専攻科を含む全クラスにおいて実施した。(相談室) 特になし。(学生主事)	A(相) B(学)	A		来年度も同様の実施を考えている。(相談室) 今年度同様、学生のメンタルに関するアンケート調査を相談室が実施する予定。その他、学生の生活等に対するアンケートが必要であれば実施する予定。(学生主事)
134	Ⅰ	1	(5)	⑥	成績優秀者,課外活動等で活躍した者等の表彰						◎		△											△	△	△	△	△	△	△			卓越した学生に対する授業料免除実施基準に基づき、対象となる学生を募集している。また、本年度卒業生に対し、学生会・寮生会・課外活動等で輝かしい実績を残した学生に対し、卒業式において表彰する。(学生主事) 日本機械学会の畠山賞受賞者(本科卒業生)、日本設計工学会の武藤栄次賞優秀学生賞受賞者(専攻科修了生)を毎年推薦し、卒業式・修了式の日に賞状を授与して表彰している。武藤栄次賞優秀学生賞は推薦済みで、畠山賞は、5年生の成績確定時に推薦の予定(機械) 現在、調査中。(電気) 毎年度，成績優秀者に対し、電子通信学会による表彰を申請している(制御) 成績優秀者の該当があれば、その都度応募する体制をとっている。また，学会(日本金属学会,日本鉄鋼協会,日本鋳造工学)等での表彰については，学科名で相談し優秀者の推薦を行っている．(材料)	A(学) A(機) A(制) A(材)	A		学会表彰など各専門学科からの推薦による表彰を受けている現状を維持する。(専攻科) 今年度同様に実施する。(学生) 次年度も今年度同様に実施予定。(機械) 成績優秀者の該当があれば、その都度応募する。また，学会等での表彰については，学科名で相談し優秀者の推薦を行う．(材料)
135	Ⅰ	1	(5)	⑦	寮生数増加のための取り組み推進							○																					寮施設の計画的な整備・改修(Ⅰ1(5)②参照)による住環境の改善，特別食の予算枠拡大による内容の充実，体験入寮制度の継続実施を行った。後期2回，年間で4回の体験入寮を行い計3名の入寮者を得たが，昨年度の7名から大幅減となり，かつ入寮へもつながらなかった。(寮務)	C(寮)	A	A	体験入寮者数が年を追って減少していることから，寮生を通して通学生へPRを行うなど，入寮者の掘り起しを行う。(寮)
136	Ⅰ	1	(5)	⑦	6S(整理・整頓・清掃・清潔・躾・作法)推進による寮生の資質向上							○																					ごみ分別回収，不要物品リサイクル，内外清掃および閉寮前の大掃除等を計画的に実施した。またテーブルマナー講習会を実施し，20名の参加者を得た。後期も，前期と同様に，定期的清掃および大掃除を計画的に実施した。また作法としては和食作法講習会を行い，20名の出席を得た。(寮務)	A(寮)	A		寮内も従来と比して整理・整頓の状態が改善されつつある。継続的な6Sの実施により寮生への定着を図る。(寮)
137	Ⅰ	1	(5)	⑦	寮生による寮行事の自律的推進を通した寮生会の自主・活性化							○																					寮生会役員を中心に，寮祭，TA，外部寮視察，避難訓練，食堂懇談会等を実施させることで，寮生会の自主自律を求めている。後期も防災避難訓練，寮祭や餅つき大会などのイベントを寮生会役員が中心となって実施したが，主事室のお膳立てが不可欠であった。(寮務)	B(寮)	A		主事室からの要請がなくとも，寮学年暦に基づき自主的に年間活動が行えるよう寮生会役員へ一層の自律を求めていく。(寮)
138	Ⅰ	1	(5)	⑧	学生便覧の発行																										◎		予定どおり、1，450部発行し、学生、教職員及び外部機関へ配布した。(学生課)	A(学生)	A	A	予定部数を発行したい。(学生課)
139	Ⅰ	1	(5)	⑧	高専通信の発行									○																			7月に76号、12月に77号及び50周年記念特集号、3月に78号を発行し、全教職員及び保護者に配布した。(企画)	A(企)	A		引き続き実施する。(企画)
140	Ⅰ	1	(5)	⑧	図書館だよりの発行										○																		平成26年度中に2回(7月、12月)発行。通常通り、問題なく2回の発行を完了した。	B(図)	A		特に問題がないので、現在の編集方針を続ける予定である。(図)
141	Ⅰ	1	(5)	⑧	成績通知および担任所見による保護者との連携					○																							年4回の試験に合わせて，前期中間(7月)，前期期末(10月末)，後期中間(12月末)，年度総合(3月)に成績表を保護者に送付している．(教務)	A(教務)	A		担任所見記入に日程的余裕がないのが問題である．(教務)
142	Ⅰ	1	(5)	⑧	保護者懇談会の実施					○																							後援会総会(5月17日)の日の午後に全クラスで保護者懇談会を実施した．参加者は本科324名(31%)，専攻科11名(18%)であった．また，個人懇談の出席者は本科189名であった．後期は11月初めの高専祭，体育祭の時期にクラスの必要に応じて行っている．(教務)	A(教務)	A		平成27年度も実施をすすめる．(教務)
			(6)教育環境の整備・活用																																				
143	Ⅰ	1	(6)	①	緊急度に応じた施設等の整備推進					○																							緊急営繕を調査し，第一体育館の外壁落下と雨漏り対策を機構へ要望した．(教務)	A(教務)	A	A	厳しい予算の中精選して行う．(教務)

144	Ⅰ	1	(6)	①	実験室・設備等の清掃・安全巡視の実施																								○		安全衛生委員会委員による巡視及び産業医と衛生管理者による巡視を毎月定期的に行い、衛生面や安全面などからの点検を行った。また、不備な箇所は関係部署と連携し改善を図っている。平成26年度改善実績(前期　20件、後期13件)。(総務課)	A(総務)	A		継続して実施する。(総務課)
145	認	1	(6)	①	△教室等(自学自習スペース含む)の利用率調査の実施																								○		保有する施設の稼働率調査を(年1回)実施する。結果は施設環境委員会に報告すると共に施設の将来計画へ反映させる。(総務課)	A(総務)	A		引き続き、保有する施設の稼働率調査を年1回)実施し、結果を施設環境委員会に報告すると共に施設の将来計画へ反映させる。(総務課)
146	Ⅰ	1	(6)	①	平成25年度補正予算による導入機器・設備の利用度合いの把握(機構理事長要請)																	○	○	○	○	○	○	○	○		・材料特性評価教育システム:機械工学実験(前期　硬さ試験、後期　引張試験)で5年生全員が使用した。また卒業研究でも主要な試験機として使用した。(機械) ・三次元造形教育支援システム:デザイン工学および制御工学の卒業研究で使用した。また創造工学実験、1日体験入学、外部からの依頼等で使用した。(機械) ・空気力学・流れの可視化実験装置:5年生開講科目である機械工学実験、機械要素設計実験、中学生の学校説明会などに使用予定のため、段どり、実験手順、テキスト作成と準備を進めている。(機械)　・ロボットアーム付ラインシーケンサー:機械工学実験導入に向け、教材策定を行っている. 来年度には稼働が見込まれる。またロボットアームについては、卒業研究にて活用した。(機械) 組み込みシステム教育用プラットフォーム:学生50名、教員1名　電気電子計測、マイコン応用、卒業研究で利用、エネルギー教育用実験装置:学生48名、教員4名　電気機器実験(通年4時間/週)において使用、テラヘルツ時間領域分光システム:学生1名、教員1名　15時間程度/週、卒業研究と企業との共同研究で利用。(電気) 未実施(制御) 粒度分布系, 紫外可視分光光度計, 蛍光顕微鏡の利用を学生実験。卒研, 専攻科研究に組込んで活用している(生化) 変態試験装置, 高温硬さ計, 計装シャルピー,引張り試験装置のいずれも卒業研究, 教員研究で使用中。(材料) 英語の自学教材については、個々の学生の学習履歴が残っている。授業での利用度合いは英語科で把握している。(文) 一般理科は導入実績がない(理)	A(機) A(電) A(材) A(文)	A		・空気力学・流れの可視化実験装置は、来年度機械工学実験にて使用予定。(機械) 引き続き、有効利用を進める。(電気) 使用日誌を設置し, 各装置の利用状況を把握する。(材料) 継続(文)
147	Ⅰ	1	(6)	①	施設・設備の予防保全・点検の実施および維持																								○		安全衛生委員会において毎月の巡視を行う際、併せて施設の不具合箇所などについても点検を行い指摘対応表を作成し早期の保全体制を執っている。(総務課)	A(総務)	A		継続して実施する。(総務課)
148	Ⅰ	1	(6)	①	教育環境の確保、安全で快適な教育環境を意識した取組の推進					○		○										○	○	○	○	○	○	○			寮施設の整備・改修(Ⅰ1(5)②参照)を実施しているが, 特に男子寮2～4階学習室へのエアコン設置, 居室や捕食室の消毒, 3Sを行った。後期も閉寮期間を利用して, 食堂や居室の不具合の改修, 消毒を実施する。(寮務) 旧機械工作工場および旧機械電気実験実習棟をものづくり教育センターとして改修し、教育環境を確保し、安全で快適な教育環境を構築した。機械加工実験実習室、造形実習室、鋳造実習室、溶接整形実習室および複数の実験室を改修し、新たに製図室を配置した。また、電気炉、ワイヤカット放電加工機、3Dプリンタ、CAD/CAM等の設備を新規に導入した。(機械) 1年生への作業時の保護めがね(全員入学時に購入済み)着用の徹底。2年生上ににも着用を勧めている。 4階の電子通信実験室に置かれていた補正予算で設置された機器を、学生実験の際の妨げにならないように、3, 4階のエレベーターホールに物置を設置し、安全性の向上を図った。(電気) 教室清掃の規律づくり、空調整備などによる清潔かつ快適な環境づくりを推進している(制御) 情報化対応室のPC8台を更新。OSをWindows8からWindows8. 1にアップグレードした。(生化) 職場巡視の指示に従い, 継続的改善を実施(材料) 英語教育環境整備の一環として、新設されたLL教室の活用を図り、併設されたPC学習室等を使った学習設備(CALLシステム)を導入し、授業で活用している。(文) 設備・環境に関しては、機会ある毎に問題点を指摘し、改善を提案している。(理)	A(機) A(電) B(寮) B(制) A(材) B(文) B(理)	A		寮整備経費を利用して, 継続的な寮設備・環境の維持改善に努める。(寮) ものづくりセンターを継続して使用予定。(機械) 引き続き、安全性に配慮して必要であれば改善を行う。(電気) 職場巡視の指示に従い, 継続的改善を実施の予定(材料) 学科単位ではできない(文) 設備・環境に関しては、引き続き問題点を指摘し、改善を提案する。新たに化学実験では安全性の高い実験テーマへの提案をする。教育環境の向上のため、化学情報データベースのSciFinderの久留米高専への導入をはたらきかける。(理)
149	外	1	(6)	①	設備整備マスタープランの継続的見直し					◎			△																△		国土交通省との筑後川護岸工事に伴う移設検討の際、昨年度策定したプランを説明した。現在、その案に基づいて、先方が検討中。(企画) 施設・環境委員会にて、具体的案件を整理した。また、施設環境委員会に継続検討を行うこととなった。(総務課)	A(企) A(総務)	A		次年度は、企画委員会では対応せず、施設環境委員会での検討事項とする。(企画) 引き続き、施設・環境委員会にて、具体的案件を整理する予定。(総務課)
150	Ⅰ	1	(6)	①	老朽化施設・設備の整備に関する営繕要求の見直し及び予算要求					○																					施設・環境委員会で検討し、3件要望した。(教務)	A(教務)	A		
151	Ⅰ	1	(6)	①	学生や来訪者の利用に資するユニバーサルデザインの導入検討																								○		管理棟の改修にあたり、来訪者利用に資するエレベーターを設置することとした。(総務課)	A(総務)	A		管理棟の改修実施。(総務課)
152	Ⅰ	1	(6)	①	省エネ対応機器の導入検討																								○		電気料削減のため、物品調達においては省エネ型の機器を調達する。また、改修等を行う場所についてはできる限りLED照明を採用する。(総務課)	A(総務)	A		引き続き本年度と同様に取り組む。(総務課)
153	Ⅰ	1	(6)	①	無線LANの導入およびネットワークの高速化検討										○																平成30年度の更新の際, SINET5(1Gbps)に変更され, 学生が自学するための無線LANをも設置される予定である. これらは高専統一ネットワークシステムとしてて提奨される. (総合)	A(情)	A		引き続き高専ネットワークシステムについて機構からの調査依頼が予想されるため, 適宜対応する. 無線LANは教員室などには配置されないため, 学内予算を用いても整備するか否か検討する. (総合)
154	Ⅰ	1	(6)	①	薬品・危険物等の購入・保管・廃棄管理体制整備					◎												△	△	△	△	△	△	△	△		該当教員がそれぞれ実施。(電気) 該当なし(制御) 薬品保管庫の不足分を購入予定であるが, 本年度は予算がつかず購入無し(生化) 該当教員がそれぞれ実施。(材料) 一般化学から、試薬管理システムを事務方に提案した。(理)	A(材) B(理)	A		引き続き、一般化学から、試薬管理システムの導入を働きかける。(理)
155	Ⅰ	1	(6)	①	専攻科棟学習環境の整備(第1回自己評価検討委員会指摘事項)							○																			講義環境改善の一環として2階大講義室のプロジェクタの更新をした。(専攻科)	A(専)	A		学生の各種コミュニケーションを活発化する環境の提供について検討する。(専攻科)
156	Ⅰ	1	(6)	②	「実験実習安全必携」の新任教員および新任技術職員への配布					○							○														4月1日の新任教員で配布した. (教務)	A(教務)	A	B	4月1日の新任教員で配布する. (教務)
157	Ⅰ	1	(6)	②	「安全の心得」の活用及び更新					○							○														平成25年度に改訂し、活用している. (教務)	A(教務)	A		
158	Ⅰ	1	(6)	②	ヒヤリハット報告の奨励および危険事例の情報共有					○							○														ヒヤリハット報告の提出を奨励している。(教務)	B(教務)	B		
159	Ⅰ	1	(6)	②	SD会議における実験実習時の安全再確認												○														3月実施のSD会議において確認した。(教務)	A(教務)	A		これまでの取り組みを継続していく。(教務)
160	Ⅰ	1	(6)	②	安全衛生管理に関する外部講習会への教職員派遣					○							○												○		派遣実績なし(総務課)	D(教務) D(総務)	D		適当な講習会の案内を行い奨励する. (総務課)
161	Ⅰ	1	(6)	③	女子学生のための教育環境の整備等の実施					○																			○		女子トイレの盗撮防止処置を行った. ものづくり教育センターに女子トイレを設置した。(教務、総務課)	A(教務) A(総務)	A	A	次年度においては、配分予算を勘案しつつ、検討する。(総務課)
162	Ⅰ	1	(6)	③	女性教職員の職場環境の整備等の実施					○																			○		一般文科理科棟の女子トイレの改善について要望が出されたことを, 関係部署に伝え, また施設環境委員会で報告した. (教務)女子トイレの盗撮防止処置を行った. (教務、総務課)	A(教務) A(総務)	A		次年度においては、配分予算を勘案しつつ、検討する。(総務課)
163	Ⅰ	4	(6)	③	男女共同参画およびワークライフバランスの推進					○																			○		平成27年度に北九州高専で開催が計画されている高専女子フォーラムの実行委員会に本校教員1名がメンバー(教務) 男女共同参画推進室を設置した。推進室会議を開催し、取組事項を確認した。(総務課)	A(教務) A(総務)	A		男女共同参画に関するアンケート調査を実施する予定。(総務課)
164	Ⅰ	1	(6)	④	図書、学術雑誌、視聴覚資料等の系統的収集、整理および有効活用										○																学生要望図書の購入(リクエスト図書) ブックハンティングを7月、12月に実施した。(図) 計画的に学生用図書の購入を実施した。(図)	B(図)	A	A	廃棄雑誌の有効利用(学内希望者への譲渡など)を検討する予定である。(図)
165	Ⅰ	1	(6)	④	ICカードを用いた学生データ(教務・学生・寮関係)一元管理システムの導入検討					○	○	○																		○	特になし(学生主事) 寮務関係で必要なデータを抽出し, 機構へアンケートとして要望を提出した。(寮務) 他高専の状況を調査し、検討中である。(学生課)	D(学) A(寮) D(学生)	A		必要に応じ検討する。(学生主事) 高専機構の計画に順じて適宜対応する。(寮) 他高専の状況を調査し、引き続き検討していきたい。(学生課)
166	Ⅰ	1	(6)	④	学生・保護者メール配信システムの導入検討					○																				○	他高専の状況を調査し、検討中である。(学生課)	D(学生)	A		他高専の状況を調査し、引き続き検討していきたい。(学生課)
167	Ⅰ	1	(6)	④	寮生外泊・欠食管理システムの導入検討(第4回学科長委員会寮務主事提案)							○																		○	寮務主事補2名が香川高専高松キャンパスで運用されている外泊・欠食管理システムを見学・調査した。九州沖縄地区寮務主事会議において, 当該システムの共同導入を本校より協議題として提案し, 都城・北九州・熊本(八代)3校から費用が安ければ導入の可能性有との回答を得たため, ベンダーへ交渉中である。(寮務) 寮務主事補2名が香川高専高松キャンパスで運用されている外泊・欠食管理システムを見学・調査した。本校への導入の可否について、ランニングコストも視野に入れて検討中である。(学生課)	B(寮) C(学生)	A		共同導入によるメリットを明確にし, 導入につなげる。(寮) 費用対効果を勘案し、検討していきたい。(学生課)
168	Ⅰ	1		⑤	学校・学科・専攻科毎の教育目標の内容確認					◎			△									△	△	△	△	△					3月のJABEE委員会で各コースの点検や改善の状況について点検した。(専攻科) 今年度は変更の予定がないこと、および内容を確認した(機械) JABEEコースにおいて実施。(電気) 実施している(制御) 学校要覧, ホームページ, 入試要項などの文言不統一を解消(生化) 学科改組あるいは名称変更を考慮し, 教育目標等の見直しを検討中. (材料)	A(専) B(機) A(制) A(材)	A	A	学則に定めた教育目標を継続維持し、問題がないか日常のなかで点検する。(専攻科) 学科改組あるいは名称変更を考慮し, 教育目標等の見直しを検討し,実施に向け具体案を作成する. (材料)
169	Ⅰ	1		⑤	学校・学科・専攻科毎の教育目標の社会に対する公表					○																					毎年発行の学校要覧および学科紹介Webページに記載している. (教務)	A(教務)	A		学校要覧および学科紹介Webページに記載する. (教務)

170	認	1		⑤	○学校・学科・専攻科毎(本科・専攻科・JABEE目標)の教育目標の教職員及び学生への周知周知方法改善					◎			△										△	△	△	△	△				ガイダンス時に説明、パネルでの掲示など機会ごとに説明方法を改善した。(専攻科) 学生用掲示板の近くに大型パネルを設置して周知を図っている。(機械) JABEEコースにおいて実施。(電気) 学科の教育目標、JABEE目標を学科建物に設置し、常時確認できるようにしている。また、専攻科担当や学級担任による説明を行っている。(制御) 教育目標のパネルを作成し掲示(生化) 材料工学科の教育目標のパネルを作成し掲示する。教職員・学生が目につくような箇所にパネルを設置し，これを継続している．また，本科入学生，新4年生，専攻科入学生については，説明会を実施．(材料)	A(専) A(機) A(制) A(材)	A		学生の周知状況アンケートの実施方法について検討する。(教務、専攻科) 次年度も今年度同様に実施予定。(機械) 材料工学科の教育目標のパネルを作成し掲示する。教職員・学生が目につくような箇所にパネルを設置し，これを継続している．また，本科入学生，新4年生，専攻科入学生については，説明会を実施する予定．(材料)
171	認	1		⑤	○専攻科・JABEE目的目標別科目配置図整理								○																		整備(専攻科)	A(専)	A		変更があれば更新する。(教務、専攻科)
172	認	1		⑤	○教員シラバス活用・ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝﾎﾟﾘｼｰ周知度・目的目標周知度アンケート実施、分析および対策検討					◎			△																		シラバス利用について学生授業アンケートにおいて実施。(教務)	B(教務)	B		教職員に対するアンケートの実施方法を検討する。(教務、専攻科)
173	Ⅰ	1		⑥	シラバスの作成と活用					◎			△										△	△	△	△	△	△	△		初回の授業でシラバスを用いて、授業について具体的に説明している。(機械) 例年通り作成。活用は不十分。(電気) 授業開始時にシラバスにより授業計画と評価方法を必ず説明している。(材料) シラバスは全員が作成し、計画に基づいた授業を実施している。(文) シラバスは一般理科教員の全員が作成し、授業の配分に役立てている。(理)	A(機) B(理) A(材)	A	B	次年度も今年度同様に実施予定。(機械) 授業開始時にシラバスにより授業計画と評価方法を必ず説明する。(材料) 引き続き、シラバスを作成し、授業の配分に役立てる。(理)
174	認	1		⑥	△学修単位(専攻科含む)学習時間確認方法検討					○			○																		教務留意事項にあげて徹底を図っている。(教務) 検討中(専攻科)	B(教務) B(専)	B		具体化の検討を継続する。(教務、専攻科)
175	認	1		⑥	○定期試験問題年度類似確認方法検討					○			○																		検討中(教務)(専攻科)	B(教務) B(専)	B		具体化の検討を継続する。(教務、専攻科)
176	Ⅰ	1		⑥	成績評価・単位認定・進級認定・卒業修了認定の学生への周知および適切な実施					○			○																		年4回の試験に合わせて，前期中間(7月)，前期期末(10月末)，後期中間(12月末)，年度総合(3月)に成績表を保護者に送付している．(教務)	A(教務)	A		引き続き実施する．(教務)
177	Ⅰ	1		⑥	編・転入生が他高等教育機関で取得した単位の評価と補講の実施					○			○										○	○	○	○	○				今年度、該当者なし(機械) 該当なし。(電気) 該当なし(制御) 2014年度該当無し(生化) 該当事例無し．(材料)	B(機) A(材)	A		あれば検討する(材料)
178	認	1		⑥	△年度末成績・及落査定・卒業査定意見申立制度導入検討					○																					特別教育期間中に教員が個別に行っている．(教務)	D(教務)	C		教務委員会で導入の必要性を検討する。(教務)
179	外	1		⑦	本科・専攻科進路の県内・県外割合把握、公開																								○	年度別進路状況表(県内・県外が把握できる資料)をホームページへアップした。(学生課)	A(学生)	A	A	年度別進路状況表(県内・県外が把握できる資料)については、毎年度ホームページへアップしていきたい。(学生課)
		2	研究や社会連携に関する事項																																						
180	Ⅰ	2		①	科研費説明会及びその他の外部予算説明会の開催									○																	10月1日に科研費申請に関する説明会を開催予定．7月23日に，機構本部のA-step説明会をTV会議システムを利用し開催した。(企画)	A(企)	A	A	引き続き実施する．(企画)
181	Ⅰ	2		①	科研費採択数向上対策検討(機構理事長要請)									◎									△	△	△	△	△	△	△		9月1，3日に，機構本部の科学研究費補助金説明会をTV会議システムを利用し開催した。また、その録画映像を配信予定。機構制作の「科研費獲得のために」を全教職員に配信した。産学民コーディネータによる全国国立高専の科研費採択状況および傾向を調査結果を学科長委員会経由で周知した。(企画) 学科単位でやれることではない。(電気)	A(企) B(機)	A		引き続き，採択数向上へ向けて対策を検討する．(企画) 積極的に応募するように指導する。(材料)
182	Ⅰ	2		①	財団法人等の研究助成金情報のウェブによる周知																							○		70件以上の公募事業を電子メールを活用して学内へ案内したところ、その中から31件の応募があり、内3件が採択された。(総務課)	A(総務)	A		引続き本年度と同様に取り組む。(総務課)
183	Ⅰ	2		①	全国高専テクノフォーラムへの参加												○														8月21日に札幌で開催された第12回全国高専テクノフォーラムに5名(産学民連携テクノセンター員及びポスター発表教員)が参加した。(産学民)	A(産)	A		研究力・連携力の強化、共同研究等への展開、イノベーションの創出などを目指し、次年度も積極的に参加する。(産学民)
184	Ⅰ	2		①	九州沖縄地区高専テクノセンター長等会議の開催												○														8月1日に熊本高専で開催された九州沖縄地区高専テクノセンター長会議に藤田産学民連携テクノセンター長、三島産学民連携コーディネーター出席した。(産学民)	A(産)	A		九州沖縄地域の産学連携担当者が一同に会する機会なので、積極的に参加し、情報を交換し、連携を強化する。(産学民)
185	Ⅰ	2		②	共同研究・受託研究の受入れ促進												◎						△	△	△	△	△	△	△		テクノネット久留米、久留米市及び久留米リサーチ・パーク等と連携し、積極的な共同研究の受け入れを行った。今年度におけるテクノネット会員企業等との共同研究は2件となった。今年度の共同研究は1件当たりの金額は少なかったものの、前年より2件多い21件の共同研究を受け入れた。2件となった。今年度の共同研究は1件当たりの金額は少なかったものの、前年より2件多い21件の共同研究を受け入れた。(産学民) 学科教員が会社との共同研究を5件実施した。(機械) 一部の教員が実施。(電気) 共同研究5件，受託研究1件，奨学寄付金4件(学科長委員会の報告の通り)(生化) 長岡技科大・豊橋技科大・高専3機関連携プロジェクト実施中(奥山，川上，周先生)．また，京大―産業医科大学との共同研究も実施中(岩田先生)(材料)	B(産) A(機) A(材)	A	A	テクノネット久留米、久留米市及び久留米リサーチ・パーク等と連携し、積極的な受託研究、共同研究の受け入れを図る。(産学民) 会社からの要望に応じて、実施予定。(機械) 積極的に応募するよう指導する。(材料)
186	Ⅰ	2		②	A－STEP研究成果最適展開プログラム制度利用促進												○														A－STEP研究成果最適展開プログラム(平成26年度第2回公募分)説明会を開催した。(産学民)	B(産)	A		TV会議システム等による研修会を利用し、学校内においてその周知と案内を徹底する。(産学民)
187	Ⅰ	2		②	産学民連携テクノセンターの施設利用による研究成果公表の検討												○														産学民連携テクノセンター重点プロジェクト室利用者は、産学民連携テクノセンター報2014により研究成果の公表を行った。(産学民)	B(産)	A		引き続き産学民連携テクノセンター報による研究成果公表に加え、各種イベントに参加する。(産学民)
188	Ⅰ	2		②	テクノセンターの活用による研究環境の充実												○														産学民連携テクノセンター重点プロジェクト室及び地域連携多目的室(小中学生向け公開講座等)の利用により研究環境の充実を図った。(産学民)	B(産)	A		
189	Ⅰ	2		②	テクノセンターの活用による若手を中心とした研究支援の充実												○														産学民連携テクノセンター重点プロジェクト室は、若手研究者(准教授1名、助教2名)の研究環境支援として活用されている。(産学民)	B(産)	A		引き続き、産学民連携テクノセンター重点プロジェクト室を、若手研究者(准教授1名、助教2名)の研究環境支援として活用する。(産学民)
190	Ⅰ	2		②	産学民連携テクノセンター報の発刊												○														9月30日に産学民連携テクノセンター報2014を刊行した。(産学民)	A(産)	A		次年度も産学民連携テクノセンター報2015を継続して刊行する。(産学民)
191	Ⅰ	2		②	JSTや経産省九州経済産業局および地域の公設研究機関との連携強化												○														地域の公設試である久留米リサーチ・パークや、産業技術総合研究所九州センターとの連携体制を強化した。10月に久留米リサーチ・パーク主催の久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会、11月に久留米市主催、九州経済産業局後援の知的財産活用フォーラム2014に参加した。(産学民)	B(産)	A		地域の公設試である久留米リサーチ・パークや、産業技術総合研究所九州センターとの連携体制を強化し、各種イベントに参加する。(産学民)
192	Ⅰ	2		②	産業技術総合研究所および日本弁理士会九州支部との連携推進								○				○														産業財産権特論に関連して一部実施(専攻科カリキュラム) 11月28日に福岡市で開催された九州沖縄地区高専・日本弁理士会九州支部交流会に参加し、連携推進を行った。(産学民)	A(専) A(産)	A		産業財産権特論の継続(専攻科) 次年度も産業技術総合研究所および日本弁理士会九州支部との連携を継続して推進する。(産学民)
193	Ⅰ	2		②	JSTコーディネータネットワーク活動参加												○														平成25年度から産学民連携コーディネータとして三島氏を雇用し、JSTコーディネータネットワークや、高専ネットワークへ積極的に関与した。(産学民)	B(産)	A		平成27年度は全国CDの雇用予定なし。(産学民)
194	Ⅰ	2		②	産学民連携コーディネーターの配置												○														平成25年度から産学民連携コーディネータとして三島氏を雇用し、高専ネットワーク等へ積極的に関与した。(産学民)	A(産)	A		高専機構の企業技術者等活用プログラム等の制度を利用し、産学民連携コーディネーターの雇用を目指す。(産学民)
195	Ⅰ	2		②	「テクノブリッジ」への参画												○														久留米市・久留米ビジネスプラザ・久留米知的所有権センター主催の知的財産フォーラム(7月)とテクノブリッジ(2月)が、知的財産活用フォーラム2014(11月21日)に統合され、産学民連携テクノセンター員3名が参加した。(産学民)	A(産)	A		知的財産活用フォーラムに参加し、知的財産に関する知識の習得を図る。(産学民)
196	Ⅰ	2		②	久留米商工会議所、久留米リサーチパーク、地域銀行などのイベント参加推進												○														10月21日に久留米リサーチ・パークで開催された久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会(久留米リサーチ・パーク主催)に出展した。(産学民)	A(産)	A		展示ブースに出展し、久留米高専が行っている産学民連携の取り組みについて紹介する。(産学民)
197	Ⅰ	2		②	全国レベルの展示会への出展を通じた産学連携活動のアピール												◎						△	△	△	△	△	△	△		8月21日に開催された第12回全国高専テクノフォーラム(札幌)や9月11日、12日に開催されたイノベーションジャパン2014大学見本市(東京)に出展し、産学連携に関する情報収集と人的ネットワークの拡充に努めた。(産学民) 未実施(機械) 該当なし。(電気) 未実施(制御) 全国高専テクノフォーラムへの参加(生化) 鋳造工学会誌に鋳造関連の研究室紹介記事を掲載(材料)	A(産) C(機) A(材)	A		第13回全国高専テクノフォーラムやイノベーションジャパン2015大学見本市等全国規模のイベントに出展し、産学連携に関する情報収集と人的ネットワークの拡充に努める。(産学民) 予定なし(材料)
198	Ⅰ	2		②	「テクノネット久留米」(技術振興会)と連携した活動の推進												○														10月10日に開催したテクノネット久留米定時総会後に「イノベーションへの取り組み」と「海外事業の推進」をテーマに、旧制久留米工専卒業生のベンチャー企業「西部技研」の隈　扶三郎氏の講演会を開催した。(産学民)	A(産)	A		久留米高専と地域産業界等との連携・交流を深めることにより、地域産業の発展に寄与するとともに、久留米高専の教育研究の振興を図ることを目的に、テクノネット久留米との連携を強化する。(産学民)
199	Ⅰ	2		②	日本歯車工業会JGMAギヤカレッジへの参画																		○								8/6、8/7に日本歯車工業会JGMAギヤカレッジの基礎実習を行った。(機械)	A(機)	A		
200	Ⅰ	2		②	ゴム加工技術者人材育成講座の共催および講師派遣																					○					平成25年度ゴム技術講座 の実験を物作りセンターで実施(生化)		A		
201	Ⅰ	2		②	腐食防食技術研修会の開催																						○				今年度は開催せず．(材料)	D(材)	D		次年度は開催について協会と協議中．(材料)
202	Ⅰ	2		③	研究における技術科学大学との連携の可能性検討					◎			△										△	△	△	△	△	△	△		各教員が個別に勧めている．(教務) 未実施(機械) 該当なし。(電気) 未実施(制御) 共同研究を実施。(材料)	C(機) A(材)	A	A	各教員が個別に勧める．(教務) 可能性があれば検討する。(材料)

203	Ⅰ	2		④	紀要の発行										○																	第30巻第1号の発行を完了。2号の発表を準備中（図）	B（図）	A	A	特に問題なく現行通りでよいと考える。（図）
204	Ⅰ	2		④	教育研究活動等の状況とその成果の社会に対する公表												◎							△	△	△	△	△	△	△			教育研究活動の対外的発表の機会として、地域企業との交流機関である「テクノネット久留米」の定時総会を10月10日に開催した。また本校の教育内容の成果講評として新聞などのメディアでの情報公開を行った。（産学民） 国際会議で発表を行い、その内容の論文誌への掲載が決定している（機械） 学会発表の実施。（電気） 未実施(制御) 高専教育に受理(生化) 学協会などで研究成果の発表は多数行い、社会に公表しているが、教育に関する研究は該当が無い(材料) 産学民連携テクノセンターの研究者情報を更新し、学科の教員紹介ページとリンクさせている。本年度の教育研究活動の発表としては、論文等4件、口頭発表7件がある。また、専門分野の研究を生かした市民向公開講座等の講師を派遣している。本年度の実績としては、久留米市主催の「ポテト王牛島謹爾生誕150年記念展」において中畑教授が記念講演を行い、久留米市内5大学連携による市民公開講座において河合准教授が、久留米市内5大学連携による市民共同講義において安部教授と赤塚助教が講師を務めた。（文） 数学、物理、化学の教員がその研究成果を学会に発表し、社会へ公表している。（理）	B（産） A(機) A（材） B（文） B(理)	A		学協会などで研究成果の発表は多数行い、社会に公表する。(材料) 継続（文） 引き続き、一般理科の教員はその成果を学会に発表し、社会へ公表する。（理）
205	Ⅰ	2		④	研究シーズ集の発行												○															今年度も9月30日に2014年度版産学民連携テクノセンター報2014を刊行した。（産学民）	A（産）	A		次年度も産学民連携テクノセンター報2015を継続して刊行する。（産学民）
206	Ⅰ	2		④	地域の産業界に対するHPを活用した情報発信												○															産学民連携テクノセンターのWEBページでは、本校の産学連携活動の情報公開を逐次更新している。（産学民）	B（産）	A		
207	Ⅰ	2		④	各種フォーラムなどへの参加促進												○															8月に開催された第12回全国高専テクノフォーラム（札幌）や9月に開催されたイノベーションジャパン2014大学見本市（東京）に出展し、産学連携に関する情報収集と人的ネットワークの拡充に努めた。（産学民）	B（産）	A		研究力・連携力の強化、共同研究等への展開、イノベーションの創出などを目指し、次年度も積極的に参加する。（産学民）
208	Ⅰ	2		④	ウェブページの更新					△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	学生会による清掃活動や講演会など本校HPに掲載した。（学生主事） 寮祭や各種講演会など寮生活の模様を今年度これまで6回に亘り本校HPに掲載した。後期においては、和食作法講習会，防災訓練，寮祭などの模様を計5回に亘り掲載した。（寮務） 今年度，外部委託によりトップページを制作し，6月より運用している．今年度より，英語版ページ・スマホ対応ページを新設した．さらに、ガラケー対応ページを制作予定である。また，ウェブページの管理運営に伴い，ウェブページに関する運用要項，各ページの管理責任者を定めた．（企画） 専攻科ホームページを更新した。（専攻科） Wordpressに合わせてphpとMySQLを最新のバージョンにした．（総合） 産学民連携テクノセンターのWEBページでは、本校の産学連携活動の情報公開を逐次更新した。また、産学民連携テクノセンターHP公開ソフトのアップデートを行い、セキュリティの向上を図った。（産学民） 図書館HPで毎月上旬に新着図書情報を更新。（図） 就職窓口／連絡先／就職実践等を常に最新情報を掲示し、また本校指定の求人票のフォーマットをアップすることにより、就職支援業務が円滑に行えるようにしている。学内限定として学生に対し、就職求人情報を随時最新のものにしている(就職) 新着情報を頻繁に更新。（電気） 学科HPの担当者を決め、HPのリニューアルについて検討し推進している。(制御) 4月に学科のHPを更新した。（生化） 8月に材料工学科のウエブページを一新した．（材料） 学科のホームページ担当者を決め、更新している。(文) 一般理科のホームページを4月に更新した。（理） 久留米高専ホームページを更新した際、一目で更新が分かるように改修した。(総務課)	A（学） A(寮) A（企） A（専） C（図） A（情） A（産） B（制） A（材） B(理) A(総務)	A		JABEEに関連するWebページ内容の更新（JABEE委員会、専攻科） 今年度同様、学生会の活動等を掲載したい。（学生） 引き続き寮生活の模様を本校HPにおいて掲載，紹介し，入寮生増につなげる。(寮) 引き続き実施する．(企画) 次年度、ウェブページの新規改訂に関して検討する。（図書） Wordpressや関連ソフトウェアを適宜バージョンアップする．（総合） 昨年ウエブページを一新した．その更新を行う。(材料) 一般理科のホームページを4月に更新する予定である。（理）
209	Ⅰ	2		⑤	「仕上げ作業実技講習会」や「3D-CAD関連講座」などの社会人向け公開講座の開催													○						○									仕上げ作業実技講習会（4/26、5/10、5/17、6/7、6/21、7/12）、3D-CAD公開講座（基礎講座、8/25、26）、3D-CAD公開講座（CAE講座、9/24、25）を開催した。（機械）	A(教務) A(機)	A	A	
210	Ⅰ	2		⑤	高等教育コンソーシアム久留米のサテライトキャンパスの活用												○															高等教育コンソーシアム久留米を介して単位互換協定校（久留米大学・久留米工業大学・聖マリア学院大学・久留米信愛女子短期大学）との外部単位取得を推進した。後期に単位互換共同講義を専攻科一般特論、又は、先端工学特論対象講義の一部科目として実施し、さらに「まちづくり ひとづくり」をテーマに市民公開講座を実施した。。（産学民）	A（産）	A		高等教育コンソーシアム久留米を介して単位互換協定校（久留米大学・久留米工業大学・聖マリア学院大学・久留米信愛女子短期大学）間の外部単位取得を継続し、共同講義・市民公開講座を実施する。（産学民）
211	Ⅰ	2		⑤	小学校理科教育支援・出前授業等の実施												◎							△	△	△	△	△	△	△			平成26年6月9日に開催された情報教育研修講座(小郡市・三井郡教育研究所主催)に講師（中野准教授）を派遣した。（産学民） 一部の教員が実施。（電気） 未実施(制御) 2014年7/31 化学への招待～楽しい生物・化学教室～(中学生20名，小学生20名参加)を実施した。（生化） 平成26年11月に開催されるマナビィランド（久留米市主催）に久留米高専の「ふれあい理工学展」を出展予定。平成26年8月1日に開催された市民講座：「子供向けえ～るピア公開講座」（久留米市主催）に講師を派遣した（生化：渡邊准教授）。 中学生向けに公開講座を実施。さらにふれあい理工学展，久留米市パワーアップフェスタに参加。 また，佐賀市の中学校で材料に関する出前講義を実施。（材料） 該当なし。(文)	C（産） A（材）	A		従来どおり,ふれあい理工学展に参加する。（材料）
212	Ⅰ	2		⑤	佐賀県内小中学校への出前授業の検討												◎							△	△	△	△	△	△	△			該当なし。（電気） 未実施(制御) 鳥栖市の小学校で材料に関する授業実施（材料） 該当なし。(文)	A（材）	A		機会を見つけて実施する予定。（材料）
213	Ⅰ	2		⑤	九州沖縄地区高専の科学技術支援の連携活動への参画													○														九州沖縄地区高専技術職員研修に2名が参加した。（教務）	A(教務)	A		これまでの取り組みを継続していく。（教務）
214	Ⅰ	2		⑤	高等教育コンソーシアム久留米の「小中高連携部会」への参画												○															高等教育コンソーシアム久留米の小中高連携部会に参加し、学生主体の活動として、夏休みの小学生指導等に参加した。（産学民）	C（産）	A		
215	Ⅰ	2		⑤	久留米マナビイランドへの参画												◎							△	△	△	△	△	△	△			11月9日に開催された第19回マナビィランド（久留米生涯学習推進市民協会主催）に6学科等でふれあい理工学展を出展した。（産学民） ふれあい理工学展に参加した。（機械） 担当者が実施予定。（電気） 毎年「ふれあい理工学展」参加している(制御) 2014年度も参加した（生化） 参加した．（材料） 該当なし。(文) 11月に行われたふれあい理工学展に参加した。（理）	A（産） A(機) A（制） A（材） B(理)	A		平成27年度は開催条件が大きく変わらないことを前提として、平成26年度と同規模で出展する。（産学民） 参加予定．（材料） これまでの取り組みを継続していく。（理）
216	外	2		⑤	久留米市「大学等のみえるまちづくり」への参画						○																					学校を通しての募集ではなかったため、参加人数等正確に把握はしていないが、数名の学生の参加があったと聞いている。（学生主事）	B（学）	A		市より依頼があれば、できるだけ記録が残るようにして協力したい。（学生）
217	Ⅰ	2		⑤	地域企業との共同研究を通じた学生の共同教育プログラム実施								○				○															専攻科1年の産業デザイン演習では、地域企業の協力により、6グループに分けた学生が、6社の企業の商品開発やデザイン活用について参画提案を行った。（産学民）	B（産）	A		産業デザイン演習の今後の展開方法などについて検討する（専攻科）
218	Ⅰ	2		⑥	知的財産管理システムを利用した知的財産の有効かつ効率的活用												○															本校における知財の活用を目指し、日本弁理士会九州支部との連携強化、テクノネット久留米を活用した産学連携などを推進し、有効かつ効率的な知財活用の在り方を検討した。（産学民）	C（産）	A	A	引き続き知的財産管理システムを利用し、日本弁理士会九州支部との連携強化、テクノネット久留米を活用した産学連携などを推進し、有効かつ効率的な知財活用の在り方を検討する。（産学民）
219	Ⅰ	2		⑥	知財申請に関する講習会の開催												○															9月2日に開催された九州経済産業局主催の知的財産権制度説明会（福岡市）に知的財産部門マネージャーが出席し、本校での知的財産申請に関する講習会の開催を検討した。9月1、2日に開催された知的財産に関する講習会（機構主催）に宮原主任が出席した。（産学民）	C（産）	A		知的財産申請に関する講習会の開催を検討する。（産学民）
220	Ⅰ	2		⑥	知財申請に関する各種イベントへの積極的参加の促進												○															久留米市主催の知的財産フォーラムに参加した。（産学民）	A（産）	A		次年度も知財申請に関する各種イベントに可能な限り参加する。（産学民）
221	Ⅰ	2		⑦	同窓会と連携した卒業生のネットワーク作り促進					○																						創基75周年・創立50周年記念式典，後援会，祝賀会を11月1日に開催し，記念誌を発刊した． 校長および本校の同窓会評議員が支部同窓会へ出席した．（教務）	A(教務)	A	A	校長及び本校評議員の役員会や支部同窓会への出席．（教務）
	3	国際交流等に関する事項																																		
222	Ⅰ	3		①	熊本高専主催のシンガポールのポリテクでの英語研修への学生派遣					○																						公募を実施したが希望者なし。（教務）	B(教務)	B	A	
223	Ⅰ	3		①	海外の教育機関との国際交流に関する調査実施					○				○																		機構が主催する留学生・国際交流担当者研究集会に参加した。機構の意図を知るとともに各高専の教職員との班別討議を通じて他高専の状況確認を行った。（企画）	A（企）	A		引き続き留学生・国際交流担当者研究集会に参加する．（企画）

224	Ⅰ	3		①	国際交流の推進（海外大学等との交流、教育・技術支援）					○				○																		9高専連携事業の一環としてKMITLから7名、カセサート大学から1名の学生を、特別聴講生として一か月から二か月の期間受け入れた。同事業では夏休み期間に東南アジアの数か国で行う学生交流、インターンシップの計画もあったが、最も準備が進んでいたタイでの行事が政治問題で延期または中止されたこともあり、派遣は皆無であった。またJSTのさくらサイエンスプランでKMITLの学生10名を5日間招聘することができた。 10月2日にテマセクポリテクの学生44名、10月24日にタイ王国高校生30名を受入れ、本校学生との交流を行った。（企画）（教務）	A（企）	A		9高専連携事業にてタイから15名の学生を受入れる予定である．さくらサイエンスプランも引き続き申請する．国際交流に関する支援事業に積極的に応募する．（教務）（企画）
225	Ⅰ	3		①	機構主催海外インターンシップへの応募							○																				海外インターンシップについて学生に周知したが今年度は応募がなかった。（専攻科）	A（専）	A		実施される場合、学生に周知する。（専攻科）単位認定についての課題を検討。（専攻科）
226	Ⅰ	3		①	九州地区9高専連携共同教育推進事業海外インターンシップへの参加					○																						公募を実施したが希望者なし。（教務）	B(教務)	B		
227	Ⅰ	3		①	スーパーグローバル創生事業（大学・高校版）調査（H26.6機構校長・事務部長会議）									○																		調査した結果、既に明石高専と茨城高専で高専版を実施することとなっていることがわかった。（企画）	A（企）	A		該当事業については取りやめ．他の事業を調査し，効果のあるものについては応募を検討する．（企画）
228	Ⅰ	3		②	外国人学生対象の3年次編入学試験への参加					○																						本校の5学科はいずれも募集人員を若干名として外国人学生対象の3年次編入学試験へ参加している．次年度は計4名の国費およびマレーシア政府留学生を3年次へ迎える予定である（教務）	A(教務)	A	A	各学科の受入可能数ないで受入を行う．（教務）
229	Ⅰ	3		②	留学生指導に関するセミナーへの職員派遣					○																						機構が主催する平成26年度留学生・国際交流担当者研究集会に教員1名と事務職員1名が参加した。（教務）	A(教務)	A		これまでの取り組みを継続していく。（教務）
230	Ⅰ	3		③	九州沖縄地区高専留学生交流研修会への参加					○																						留学生全員が参加の予定であったが台風19合のため中止となった．（教務）	—	—	—	引き続き参加する．
	4 管理運営に関する事項																																				
231	Ⅰ	4		①	学校の管理運営の在り方についての検討、見直し					○				○																		学科長委員会において、前回学科長委員会以降に開催された各種委員会の中で議事要旨が承認された分について公開し、情報周知を図った。（総務） 年度計画の策定および自己評価を確認する体制を確立した。（企画）	A（企）	A	A	引き続き実施する。（企画）
232	Ⅰ	4		①	会議（構成員,開催回数）の見直しによる繁忙化対策検討（理事等ヒアリング）					△	△	△	△	◎																		各種委員会等の平成25年度開催実績を調査した。主事会議で、その内容を報告し、効率的会議運営を依頼した。次年度も同様の調査を行う予定である。（企画）	A（企）	A		次年度は、会議の構成員及び開催回数の調査とする。（企画）
233	Ⅰ	4		②	一般管理費削減のための業務運営の見直し																									○		節水管理契約を見直し、当該契約を廃止した。また、加除式図書の見直しを行った。（総務課）	A（総務）	A	A	継続的に検討を行っていく。（総務課）
234	Ⅰ	4		②	事務処理方法の見直し、検討																									○		文書処理及び公印の取扱いについて現状の課題を抽出した上で、見直し方針を定め、当該方針を踏まえて関連規程の改正を行った。（総務課）	A（総務）	A		事務分掌を適正化する。（総務課）
235	Ⅰ	4		③	機構本部作成コンプライアンス・マニュアル等を活用した教職員コンプライアンス向上																									○		コンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、実施率は100%となった。（総務課）	A（総務）	A	B	引続き本年度と同様に取り組む。（総務課）
236	Ⅰ	4		③	危機管理規程に基づく、危機発生の事前防止					○																						インフル状況周知、台風接近に伴う休校措置。（教務I）	A(教務)	A		
237	認	4		③	△危機管理マニュアルの作成																									○		検討中。（総務課）	C（総務）	C		引き続き検討する。（総務課）
238	Ⅰ	4		③	教職員及び学生を対象としたヒヤリハット報告の奨励および危険事例の情報共有													○																B(教務)	B		
239	Ⅰ	4		④	内部監査項目に沿った適切な体制の見直し																									○		これまでの指摘事項等を踏まえ、事務処理体制を不断に見直している。（総務課）	A（総務）	A	A	次年度においても、これまでの指摘事項等を踏まえ、事務処理体制を不断に見直しする。（総務課）
240	Ⅰ	4		⑤	研究費不正防止に関する意識啓発（セルフチェックリスト、科研費説明会、会議等）																									○		平成26年5月14日開催の平成26年度第1回教員会議で文科省作成の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」平成26年2月18日改正版及び機構本部作成の「公的研究費使用マニュアル」を配布し、研究費不正について説明するとともに、欠席者には説明資料を配布した。（総務課）	A（総務）	A	A	引続き本年度と同様に取り組む。（総務課）
241	Ⅰ	4		⑥	事務職員や技術職員の研修会参加													△												◎		職員の資質向上のため各種研修会に職員の参加を促す。26年度実績　26名参加（総務課）	A（総務）	A	A	引続き本年度と同様に取り組む。（総務課）
242	Ⅰ	4		⑥	事務職員や技術職員の表彰規程の整備および表彰推薦実施													△												◎		本校の表彰規則を改正し、表彰対象を教員から教職員へ拡大した。また、高専機構職員表彰において1名推薦を行い理事長賞を受賞した。（総務課）	A（総務）	A		表職推薦実施については継続（総務課）
243	Ⅰ	4		⑦	国立大学法人や国立高等専門学校間での事務職員の人事交流推進																									○		今年度は、国立大学等から4名の人事交流者を受け入れ、高専機構本部へ1名派遣している。26年度受入実績　国立大学3名、他国立高専1名。（総務課）	A（総務）	A	A	引続き本年度と同様に取り組む。（総務課）
244	Ⅰ	4		⑧	IT資産管理システムによるソフトウェア管理の実施											○																年度末に実施済み．（総合）	A（情）	A	A	機構からの依頼に基づき，適時実施する．（総合）
245	Ⅰ	4		⑧	情報セキュリティ対策の計画的推進					△						◎																情報格付規則の改正やクラウド化に向けてのガイドラインの制定なども含め，セキュリティに関する規則，手順全般を機構が見直しているため，その結果を待っている状態である．（総合）	A（情）	A		機構本部の見直しを待つ．（総合）
246	Ⅰ	4		⑧	情報セキュリティ対策の取り組み体制の整備					△						◎																上に書いた理由により，体制の整備も機構による規則等の制定を待っている状態である．（総合）	A（情）	A		機構本部の見直しを待つ．（総合）
247	Ⅰ	4		⑨	自己点検評価および外部評価の社会に対する公表									○																		平成25年度認証評価結果をHPで公表。平成25年度自己点検評価書及び外部評価委員会内容をHPに掲載した。（企画）	A（企）	A	A	引き続き実施する。（企画）
248	認	4		⑨	○学校独自の自己点検(総合的な活動)評価書作成・公表									○																		平成25年度分から新たに自己点検評価書を作成した。HP上に公開予定である。（企画）	A（企）	A		引き続き実施する。（企画）
249	Ⅰ	4		⑩	外部評価委員会の開催									○																		11月21日に実施した。（企画）	A（企）	A	A	引き続き実施する。（企画）
250	Ⅰ	4			教育改善案件の予算審議方法検討					○																				○		予算減から特別事項経費に配分できず，特別な配分は行えなかった．（教務）	C(教務)	C	A	
251	Ⅰ	4			創基75周年・高専創設50周年記念事業の実施					○																						本年度，教務主事を委員長とする準備委員会を5回開催し，第4回学科長委員会（7月25日）で実行委員会の設置を決定し，第5回学科長委員会（9月12日）で校長を委員長とし主事，学科長，事務部長等から構成される実行委員会要項を決定した．今後この実行委員会で重要事項を審議・決定すると共に，実行委員会のもとに設置される作業部会で，記念式典，記念講演会，祝賀会，記念誌発行，その他事業の計画と実施を行う．11月1日，久留米市民会館で学生，来賓計1000名で盛大に開催した．（教務）	A(教務)	A		基金の運用について規則を定める．（教務）
252	Ⅰ	4			教職員の健康管理の取組推進																									○		毎週水曜日を定時退庁日と定め、毎回メール通知により周知に努めている。また、毎月１回産業医面談の機会を設け、希望者や面談が必要な対象者に対し面談を実施している。その他、職員の定期健康診断や特殊健康診断以外にも女性検診を実施し、職員の福利厚生への取組を推進している。 今年度前期実績：産業医面談5件、職員健康診断9月30日実施、女性検診受診者12名（希望者のみ受診）。 今年度後期実績：産業医面談13件（今後2/20,3/13にも実施予定）、特殊健康診断3月実施。・・・（総務課）	A（総務）	A		引続き本年度と同様に取り組む。（総務課）
253	Ⅰ	4			管理職による教員面談の実施					○																						校長が新任教員4名に対して実施する．（教務）	A(教務)	A		引き続き実施して頂く．（教務）
254	認	4			△教職員に対する各種委員会等の議事要旨開示																									○		平成25年度開催分のサイボウズへの掲載を終え、平成26年度開催分については随時掲載している。（総務課）	A（総務）	A		引続き本年度と同様に取り組む。（総務課）
255	外	4			産学民連携テクノセンターの活動強化内容の把握												○															平成27年2月1日付けで中嶌センター長が着任し活動強化内容の把握に努めた。（産学民）	A(産)	A		
256	外	4			大型設備を有効活用するための方策検討					◎							△		△				△	△	△	△	△		△			平成24年度補正予算で導入した設備・機器の説明資料を作成した．（教務） ？（電気） 該当なし(制御)	C(教務)	A		まず，平成24年度補正予算で導入した設備・機器の説明資料を公開し，可能なものは協議の上利用する．（教務）
【Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項】																																					
257	Ⅱ				運営費交付金および一般管理費の高専機構数値目標に沿った効率化実施																									○		機構本部主導の下、予算示達時に効率化係数が付加されているが、本年度は、配分予算全般についてさらに大幅な効率化係数を付加し効率化を推進している。(総務課) 必要性に乏しい定期刊行物の購読を廃止し、1年度当たり約75万円分の支出抑制を達成した。(総務課)	A（総務）	A	A	機構本部主導の下、予算示達時に効率化係数が付加されているが、次年度においても、配分予算全般についてさらに大幅な効率化係数を付加し効率化を推進する。 さらに必要性に乏しい定期刊行物の購読を廃止等を行い、支出抑制をする予定。（総務課）
258	Ⅱ				配分予算内での経費の戦略的かつ計画的な配分																									○		校内の要望を調査・順位付けを行い、優先度の高い案件について重点的に配分を行った。(総務課)	B（総務）	A		校内の要望を調査・順位付けを行い、優先度の高い案件について重点的に配分を行う予定。(総務課)
259	Ⅱ				入札及び契約の適正な実施																									○		機構規則や関係法令に基づき適正な執務を実施した。(総務課)	A（総務）	A		機構規則や関係法令に基づき適正な執務を実施する。(総務課)
260	Ⅱ				予算案の策定と関係者への周知					○																						予算配分の基本方針に関すること，教育研究費および教育研究旅費，特別事項経費，管理経費等について予算委員会（主事，学科長，事務部長，総務課長　6月19日）で検討し，第3回学科長委員会（6月20日）で審議・決定した．この予算は学科長委員会資料として校内に公開され教職員へ公開された．（教務）	B(教務)	A		予算は非常にきびしいものになることが危惧される．（教務）
261	Ⅱ				会計検査等の適正実施																									○		機構本部が作成している「公的研究費に関する監査マニュアル」に基づき、適正な監査を平成26年12月4日に行った。（総務課）	A（総務）	A		機構本部が作成している「公的研究費に関する監査マニュアル」に基づき、適正な監査を行う。（総務課）
【Ⅲ 予算】																																					

262	Ⅲ	共同研究、受託研究、奨学寄附金、科研費などの外部資金獲得の推進									○			○						○	○	○	○	○	○	○			Ⅰ-2-①に示す通り，科研費申請の説明会，機構本部の科研費およびA-step説明会(TV会議システムを利用)を開催した。(企画) 校長裁量経費により，科学研究費の不採択研究については、Aランクの研究についての助成を行い、外部資金獲得への支援を行った。また、テクノネット久留米会員と共同研究・受託研究・寄附金受け入れを行った研究者に助成を行い、外部資金獲得への支援を行った。新規テクノネット久留米会員との共同研究等に対する支援を行った。(産学民) ・産学連携組織であるテクノネット久留米の会員企業に対して、機械工学科の試験研究設備の案内および意見交換を主体とするラボツアーを6/13に開催し、共同研究が可能な事例等について協議を行った。会社との共同研究を5件実施した。(機械) ・外部資金獲得のために企業と共同研究に向けての情報交換を行った。大半の教員が科研費の申請を行う予定である。(機械) 学科単位でやれることではない。学科会議において科研費の応募状況を把握し、次年度以降必ず全員応募するように依頼。(電気) 個別の教員において実施した。(制御) 共同研究5件，受託研究1件，奨学寄付金4件(学科長委員会の報告の通り)(生化) 奨学寄附金2件,共同研究3件,科研継続1件(材料) 科研費新規採択1件、継続1件。(文) 一般理科から、科研費の応募を行った。(理)	A(企) B(産) A(機) B(電) C(制) A(材) C(文) B(理)	A		A	引き続き実施する．(企画) 学校として取組が不可欠。(電気) 奨学寄附金,共同研究の積極的に実施する。(材料) 継続(文) 次年度も、一般理科から科研費の応募を行う予定である。(理)
263	Ⅲ	予算の効率的執行					△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	寮生活環境整備経費(500万円)及び寮費(施設補修費:200万円)については，寮設備等の改修の緊急性に応じて，効率的に執行している(一例としてⅠ1(5)②参照)。寮費の他項目に関しても，予算案に順じ効率的に執行している。(寮務) 高専通信に関して予算どおり執行した。(企画) 各種研修会への出張旅費や消耗品の購入，ルータ用サーバー機の購入などを検討し，効率的に執行した。(総合) 平成26年度全国KOSEN研究ネットワーク事業にかかる活動費を発明の実用化及び発表会等への参加に積極的に執行した。(産学民) 就職活動支援費等において新規就職先の開拓のための旅費や各学科就職支援室備え付けの資料として最新の就職関連資料／書籍を購入し、予算の効率的な運用を行っている。(就職) 年間を通じて、執行率が昨年を上回った。(機械) 昨年度よりは少し改善している。(電気) 毎月予算消化状況を周知することで予算の効率的執行を図っていた。(制御) 四半期毎に学科会議で予算執行状況を確認し、予算の効率的執行に取り組んでいる。産業医の指摘を受けているが，試薬棚を購入できる予算は付いていない。(生化) 毎月の学科会議で予算執行状況を確認し、予算の効率的執行に取り組んでいる。(材料) 各教員への配分を明確にした上で計画的な執行を依頼し、本年度は1月末までにほぼ執行を終了した。(文) 予算の執行を行った。(理) 予算の計画的執行のため毎月の執行額を学科長委員会を通して学内に周知している。(総務課)	A(企) B(図) A(情) A(機) A(制) A(材) A(文) B(理) A(総務)	A			創造工学実験など専攻科予算の確保と効率的執行にあたる(専攻科) 引き続き実施する．(企画) 次年度は学生用図書の学科配分方法(特別配分など)の見直しを検討する。(図) 機構本部がグローバルIPアドレスと証明書の利用料，SINETへの接続料金を一括で管理することになるため，それに対応する必要がある．研修会や消耗品は時期の予測ができるため，それに基づいて効率的に利用する．(総合) 次年度も今年度同様に実施予定。(機械) 毎月の学科会議で予算執行状況を確認し、予算の効率的執行に取り組む。(材料) 継続(文) 次年度も、予算を効率的に執行する予定である。(理) 次年度においても引き続き、予算の計画的執行のため、毎月の執行額を学科長委員会を通して学内に周知していく。(総務課)